

美術圖書目錄



特254

284

册一十三第

行發堂卿芸社會名合



始



特254
284

■本欄御一讀の上御用命を■

- 一 御注文
御注文は總て前金にて必ず代價に郵送料を添へ御送金額上候但各官署學校等の御注文は便宜取計ひ可申候
御送金は繁堂振替口座番號【大阪二五八】東京支店は東京四〇九四〇番に御拂込、拂込用紙は各地郵便局に有之候。又は郵便爲替、銀行爲替にて御送金被下度候
爲替にて御不便の節は壹圓迄郵券代用不苦壹圓以上は一割増の事
通常郵便にて萬一か御懸念の方は書留料を加へ御送附被下度但し書目中郵税金拾八錢以上のものは書留小包料に御座候
本書目送料は内地のみに付、臺灣、樺太、朝鮮、支那、其他海外は別に申受候(次頁参照)
- 二 御送金
御送金は繁堂振替口座番號【大阪二五八】東京支店は東京四〇九四〇番に御拂込、拂込用紙は各地郵便局に有之候。又は郵便爲替、銀行爲替にて御送金被下度候
爲替にて御不便の節は壹圓迄郵券代用不苦壹圓以上は一割増の事
通常郵便にて萬一か御懸念の方は書留料を加へ御送附被下度但し書目中郵税金拾八錢以上のものは書留小包料に御座候
本書目送料は内地のみに付、臺灣、樺太、朝鮮、支那、其他海外は別に申受候(次頁参照)
- 三 郵券代用
爲替にて御不便の節は壹圓迄郵券代用不苦壹圓以上は一割増の事
通常郵便にて萬一か御懸念の方は書留料を加へ御送附被下度但し書目中郵税金拾八錢以上のものは書留小包料に御座候
本書目送料は内地のみに付、臺灣、樺太、朝鮮、支那、其他海外は別に申受候(次頁参照)
- 四 遞送
爲替にて御不便の節は壹圓迄郵券代用不苦壹圓以上は一割増の事
通常郵便にて萬一か御懸念の方は書留料を加へ御送附被下度但し書目中郵税金拾八錢以上のものは書留小包料に御座候
本書目送料は内地のみに付、臺灣、樺太、朝鮮、支那、其他海外は別に申受候(次頁参照)
- 五 臺灣朝支
爲替にて御不便の節は壹圓迄郵券代用不苦壹圓以上は一割増の事
通常郵便にて萬一か御懸念の方は書留料を加へ御送附被下度但し書目中郵税金拾八錢以上のものは書留小包料に御座候
本書目送料は内地のみに付、臺灣、樺太、朝鮮、支那、其他海外は別に申受候(次頁参照)
- 六 代金引換
代金引換小包にて御注文の節は御注文金額の半額必ず御送金額上候
本書目中「裝幀寸法」は左記の通りに御座候
- 七 裝幀寸法
代金引換小包にて御注文の節は御注文金額の半額必ず御送金額上候
本書目中「裝幀寸法」は左記の通りに御座候
- 八 御注意
○中本(竪四六寸 横六寸) 〇四六倍判(竪八寸五分 横六寸二分) 〇大形本(竪一尺二寸五分 横八寸五分) 〇判大形本(竪一尺二寸五分 横八寸五分) 〇半紙本(竪七寸五分 横五寸二分) 〇判大形本(竪一尺二寸五分 横八寸五分)
御注文の節は品目、號數、冊數、御住所御姓名等楷書にて明細に御記載ありたし又御照會の向きは【往復はがき】或は相當郵券御封入被下度候
尙御注文にて發送の品御返戻の儀堅く御断申上候に付書目丈にて内容不明瞭の品は御照會被下度詳細御報申上候
地方各位の御便宜を計り繁堂出版物以外全國各書局發行の美術に關した圖書雜誌をも誠實迅速に御取次致候御照會は必返信料封入又は往復はがきで詳細明瞭に可成發行所名御書添へ御申越願上候
- 九 地方部
御注文の節は品目、號數、冊數、御住所御姓名等楷書にて明細に御記載ありたし又御照會の向きは【往復はがき】或は相當郵券御封入被下度候
尙御注文にて發送の品御返戻の儀堅く御断申上候に付書目丈にて内容不明瞭の品は御照會被下度詳細御報申上候
地方各位の御便宜を計り繁堂出版物以外全國各書局發行の美術に關した圖書雜誌をも誠實迅速に御取次致候御照會は必返信料封入又は往復はがきで詳細明瞭に可成發行所名御書添へ御申越願上候

【店本】東京市都部京【店支】
【店本】東京市都部京【店支】
【店本】東京市都部京【店支】

◆略概料便郵◆

小包郵便料金 (小包郵便物寸法 幅厚さ限度二尺迄) (但幅厚五寸以内のものは長さ三尺迄)		一貫六百目迄		普通書留		六十二錢		代金引換十七錢	
目方	二百匁迄	四百匁迄	六百匁迄	八百匁迄	一貫匁迄	一貫二百匁迄	一貫四百匁迄	一貫六百匁迄	
内地(普通書留)	十二錢	十八錢	廿七錢	三十四錢	四十五錢	五十四錢	六十二錢	七十四錢	八十四錢
同代金引換	二十三錢	三十二錢	四十一錢	五十錢	五十九錢	六十八錢	七十七錢	八十六錢	
臺灣、樺太(普通書留)	三十錢	四十錢	五十錢	六十錢	七十錢	八十錢	九十錢	九十錢	
朝鮮、滿洲	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢	八十五錢	九十錢	九十五錢	一圓	
朝鮮、臺灣、樺太代金引換	五十錢	六十錢	七十錢	八十錢	九十錢	九十五錢	一圓	一圓五錢	
<p>●支那宛小包郵便料金 (代金引換料ハ左記) (ノ外ニ一個四錢)</p> <p>二六六匁 錢五三三匁 錢一〇六六匁 錢一、三三三匁 錢三、六六六匁 (一キログ) 四五 (二キログ) 六〇 (三キログ) 九〇 (六キログ) 一、三〇 (八キログ) 一、七〇 (十キログ) 二、一〇</p> <p>●振替貯金拂込手数料金 (郵便局ニ有マス)</p> <p>一圓迄 二錢 二圓迄 五圓迄 四錢 十圓迄 十圓迄 十錢 五十圓迄 八錢 百圓迄 十錢 五百圓迄 十五錢</p> <p>●代金引換爲替料金 (小爲替料金及通常爲替料金モ同様)</p> <p>代金引換小包料の外に金額一圓迄三錢、五圓迄五錢、十圓迄七錢、十五圓迄十錢、二十圓迄十三錢、五十圓迄二十五錢、百圓迄三十五錢、百五十圓迄四十五錢、二百圓迄五十五錢、二百五十圓迄六十五錢、三百圓迄七十五錢、</p>									

美術タイムス
芸神堂のパンフレットとして隔月に發行の豫定です、毎號大家の美術に關する記事と新刊美術圖書の紹介に忠實な雜誌です御申越の方々に差上ります。

◆美術圖書總目錄索引◆

▲傑作美術畫	一
▲漢畫	八
▲同 (寫真版)	三
▲習畫帖	一八
▲人物	二〇
▲同 (寫真版)	二四
▲浮世繪名畫全集	二七
▲山水・風景畫	三一
▲花鳥・動物畫	三六
▲草花・虫類	四〇
▲繪卷類	四四
▲雜畫	四六
▲故名家圖錄	五〇
▲現代大家圖錄	五五
▲美術展覽會圖錄	六〇
▲浮世繪圖錄及參考書	七〇
▲趣味蒐集展圖錄	七二
▲古代有職模樣	七四
▲陶器・漆器參考書	八二
▲圖案參考書	八五
▲同 (寫真版)	九一
▲衣服裾模樣手拭其他	九四
▲紋帳・色本	九八
▲茶・花・盆石・作法	九九
▲書法・庭造・和歌	一〇〇
▲書畫鑑定・畫論・傳記・一般美術書	一〇二
▲定期刊行	一〇六
▲東洋藝術叢書	一〇七
▲西洋藝術叢書	一〇九
▲美術畫譜	一一〇
▲名家畫譜	一一九

合名社會艸堂發賣美術圖書總目錄

昭和六年四月改正
第三十一號
2591

模刻

古今傑作美術畫

◆額面、掛軸或は屏風襖の張交等◆
◆裝飾用として其高尚にして風韻ある◆

木版彩色刷別漉奉書全紙

御注文の節は番號御記入被下度候

左記九十餘種的美術畫は由緒ある古今大家の眞筆にして今之を獲ん事に汲々たれ共數に限りありて、手に入る事容易ならず弊堂是等畫の材料蒐集に東奔西走する事多年今や名家社寺珍藏の什寶を寫し、新作繪畫に至りては各大家に特に請ひ、加ふるに弊堂獨得の木版彩色摺を以てしたれば恰も實物を手にするの感あるべく額面、掛軸或は屏風、襖の張交等裝飾用として其高尚にして風韻あるは言を俟たず亦價の廉なるに於ては他に其比を見ず。

傑作美術畫

◇候度下被算加御料送す必に外の價正◇

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番口 號繪
圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	筆者
■宮中美人	■双鶏	■官女花使	■錦鶏鳥	■飛瀑	■丹頂鶴	■新年梅	■岩上龜	■雪中富士	■蓬萊山	畫題
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇 ^円	正價
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番口 號繪
圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	筆者
■お福	△美人	■布袋	■大黒天	■惠比須	■遊女	■靈松鶴巢	■紫式部	■兔	■唐美人	畫題
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇 ^円	正價

◇候度下被算加御料送す必に外の價正◇

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
伊藤若冲	土佐光起	土佐光起	松村景文	松村景文	松村景文	松村景文	松村景文	松村吳春	山口素鞠	森狙仙
■双鶏	■上代美人	■美人舞踏	■寒牡丹に鶴鴒	■卯花時鳥	■紅葉に四十雀	■糸櫻に駒鳥	■雨中櫻に山鳥	■月下砧	■櫻に鷹	■猿
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	圓山應舉	自畫自賛	今尾景年	望月玉泉	幸楚梅嶺	鈴木松年	狩野探幽
■鴨遊泳	■櫻に木啄	△瀧山水	■嵐山	■旭松	△山陽の楠公	■同(冬)	■同(秋)	■同(夏)	■花鳥(春)	■觀世音
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	七〇

傑作美術畫 (送料五枚迄六錢 十五枚迄十八錢十五枚以上は規定の送料申受候)

◇ 著生先元本山 ◇

□ 來出版重もれ何評好 □

- ▲ 裱具の葉 ▼ 四六判洋装 定價金參圓 送料十八錢
- ▲ 篆刻の葉 ▼ 四六判洋装 定價金參圓 送料十八錢
- ▲ 畫鑑賞の葉 ▼ 半紙本和装 定價金貳圓 送料十八錢

書畫名家大家の逸話奇行、その
鑑定の方法、昔の書畫の値段、書畫
の用語等、約九十餘の章に亘り詳細
述べる。書畫鑑賞家必携の書冊であ
る。

自分の描いた書なり畫なり、自刻
の印章を押した書なり畫なり、自
分の心を込めて書きたり畫きたり、
事々々々、容易に會得する事が出来
る。

方々、破れ掛り、筆を越し、煤の出
り、一々、圓につき、素人にも容易
に會得す。

方々、破れ掛り、筆を越し、煤の出
り、一々、圓につき、素人にも容易
に會得す。

芥子園畫傳の描き方詳解
一名 東洋畫の描き方詳解
芥子園畫傳の名は餘りにも弘く世の習畫者多數が藏する所なれど未だ明解を下せし書皆無といふべく
實に芥子園畫傳の二百幾十年間正に出づべく、世に出でざりし名著なり。この何れもが誤譯を傳へ、讀者の多く
來しむ所なり。本書は芥子園畫傳の始末を明瞭に下し、解は極め、何れもが誤譯を傳へ、讀者の多く
苦しみ得べく、習畫者必讀の書として、畫傳と解を兼ねし、近來の快著なり。

芥子園畫傳國譯釋解

唐紙刷 唐本仕立 全二冊 快入
中味四二二頁 内圖版二三五頁
定價金六圓五拾錢 送料二十七錢

一鳥湯郷本京東 社會名合 條二町寺都京
〇〇六三谷下話電 〇九二三上話電
〇四九〇四京東話電 〇八五二版大替換

品製複術美古他其册短と紙色

番號	書名	著者	印刷及寸法	定價	送料
82	▲ 松魚圖	竹内栖鳳	大和紙判	一〇〇	一八
83	▲ 惜春圖	同	大和紙判	二〇〇	一八
84	▲ 兔圖	西村五雲	大和紙判	一〇〇	一八
85	▲ 龍圖	同	大和紙判	一〇〇	一八
86	▲ 玄武	武(己龜)同	同	一〇〇	一八
87	▲ 梅	川合玉堂	大木版紙判	四〇〇	一八
88	▲ 獨	山内多門	同	三〇〇	一八
89	▲ 御所人形	西澤笛畝	同	三〇〇	一八
90	▲ 月兔圖	本阿彌光悅	扇本版形刷	四〇〇	一八
91	▲ 筆のしづく	竹内栖鳳	短冊各種	至三〇〇	一八
92	▲ 後素聚英	各種出來	大額用版	各一〇〇	一八
93	▲ 藝苑真髓	同	同	各一〇〇	一八
94	▲ 眞美餘影	同	同	至三五〇〇	各二七

(大和版印刷とは原色版或は玻璃版に木版を掛合せしものなり)

書名	著者	装幀	冊数	原價	郵税	内容概要
漢畫						
墨竹指南	玉澁上人	大木版本刷	一	・八〇	四	描竹の諸法を示したるものにして、荷も漢畫の門に入らんとする者の携へざるべからざるものなり
李用雲竹譜	寒葉齋	同	一	一〇〇	四	諸名家の筆法を臨寫したるものにして、墨竹指南と併せて觀るべきものなり
漢畫指要	同	同	二	一・五〇	一八	四卷合本天地二冊なせしものなり、山岳、河海、草木、禽獸等其南畫の悉くを描きたり
漢畫指南	同	同	二	一・五〇	一八	畫意の論より始まり山水位置、四君子、項の法、花鳥山水大景小景の法等、其他數十項に涉り詳細畫により説明せり
漢畫指南後編	文鳳有毛	大彩色本刷	三	三〇〇	一八	前記の後編として、文鳳が編せしもの木版彩色刷を以てせり、兩書共漢畫習者の好指南書なり
晚咲堂畫傳	竹莊先生	大木版紙刷	三	四〇〇	二七	漢士名士の畫傳にして、容齋の前賢故實は本書に徴ひて作られしなり
列僊圖贊	寂照月僊	大木版紙刷	三	三〇〇	一八	列僊傳所載の人物を圖したるものにして、其體裁晚咲堂畫傳に徴へり
明朝紫硯	清本翻刻	大彩色本刷	三	四・五〇	二七	明代諸名家の草花圖を臨寫したるもの收むる六十圖は悉く彩色を施したり
融齋畫譜	中林竹洞	大畫仕立本	二	三・五〇	一八	竹洞先生の筆になれる山水花鳥人物等凡そ二十六圖を收む所々彩色刷を以てせり

書名	著者	装幀	冊数	原價	郵税	内容概要
竹洞四君子	中林竹洞	木版紙刷	二	三〇〇	一八	四君子の説明は今更喋々を要せず、四君子を畫く人及南畫習者の座右映くべからざる指南書たり
竹洞花鳥畫譜	同	彩色刷	一	一・五〇	一八	本書題名の通り、竹洞先生の花鳥を收めたるものにして、南畫花鳥習者の要する指南書なり
竹堂畫譜	紀竹堂	大彩色本刷	二	二〇〇	一八	紀竹堂の作畫と諸名家の畫贊とを集めたるもの、唐紙に彩色刷を以てせり
芥子園畫傳	唐本翻刻	大彩色本刷	廿三	二〇〇〇	四五	初集には山水草木を以て、人物、鳥獸、樓閣、蘭竹梅菊の翎毛、芥子園畫傳の草蟲、芥子園畫傳の方式を説く事極めて詳なり、苟も漢畫を學ぶもの漢畫を賞鑑するもの、皆共に必ず備へざるべからざるものなり、加ふるに彩色刷を以てせり
同 中本新刻	同	彩色刷	廿三	一五〇〇	三六	本書は漢文體にして、説く所六法を始めとし、六要以下三十項あり、十二忌、三品、分宗、重品等、以下三十項あり
芥子園畫傳考	睿父石先生	大木版本刷	一	・八〇	四	書畫、墨筆、果譜、翎毛、蘭譜、竹譜、梅譜、石譜の八編に分つ。清代光緒年間の刻本にして、一時洛陽の紙價を高からしむ
十竹齋書畫譜	唐本翻刻	彩色刷	八	八〇〇	三六	舟楫、器、玩、屋舎、樓臺、亭榭、橋梁、人物に至るまで、類を分ちて、古名家の畫式を集めたるものなり
集古名公畫式	村田香谷	大木版紙刷	五	四・五〇	二七	芙蓉花以下、元明に於ける大家の筆になる花鳥畫三十九圖を收む、本仕立の書なり
元明花鳥畫傳	清本翻刻	大木版本刷	二	二〇〇	一八	經齋先生は清朝の畫伯として、夙に名あり、常に山河を跋渉し、風景を親しみ、輩と交遊を重ね、研鑽を重ねて、造詣甚だ深し。本書は其脱落不羈の才を、個體群の圖を以て描き出し、遊心外に超へ、の概あり
級齋畫譜	同	大木版紙刷	四	五・五〇	二七	
級齋畫譜	同	白紙刷	四	二・五〇	一八	

漢 畫 寫 真 版

◆後上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◆

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容
直入居士妙蹟集	畫神堂藏版	初篇二篇 鉄入大本	二	五・〇〇	一八	本邦南宗畫の泰斗田能村直入翁の遺蹟は南宗畫家將又南畫愛好家が垂涎たるもの許りなり本帖に收めたるものは遺作中殊に優秀なるものを門人數子の相謀りて撰擇撮影鮮明なる玻璃版に附せしものなれば載する所皆よく翁の眞本領を發揮せるのみならず斯道の規範として推重すべきものなり本畫一度世に出るや好評噴々忽ちにして再版に再版を重ねたり各一套に收むる凡そ百圖其彩管の躍動する所、或は天地自然の風趣に或は人物に、或は花鳥に、おのかじし靈妙の美を運び來りて、生彩奕々、宛然恍惚境に悠遊せしむ翁の傑作を網羅せるものなり
同 第二套	同	鉄入大本	二	五・〇〇	一八	
同 第三套	同	鉄入大本	二	五・〇〇	一八	
同 第四套	同	鉄入大本	二	五・〇〇	一八	
同 第五套	同	鉄入大本	二	五・〇〇	一八	
支那名畫集	京都繪美校 參考用品	大玻璃本	一	四・〇〇	二七	羅振玉氏が尤も秘藏せる支那名畫七十四圖を鮮明なる玻璃版に附したるものなり
支那名畫選	羅振玉氏藏	大玻璃本	一	四・〇〇	二七	羅振玉氏が尤も秘藏せる支那名畫七十四圖を鮮明なる玻璃版に附したるものなり
十便十宜	大雅、蕪村	和裝中本	一	一・〇〇	四	兩者筆原本は最も世に名高きものにして手に入る事容易ならず藏者に請ふて鮮明なる印刷に附し大方諸君にわかかつ
山水圖	池大雅	全紙刷 玻璃版	一	一・〇〇	四	大雅好みて名山に遊ぶ千景萬勝悉く之を筆端より發す其好む山水の景を筆にせしもの即ち之なり

◆後上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◆

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容
掃心圖畫	富岡鐵齋	大形鉄入	一	三〇・〇〇	五四	漢學者として南畫家の泰斗として翁の遺作にかゝる優品六十點を精巧なる玻璃版に附せしものなり
一樂莊追薦遺墨集	田近竹邨	大玻璃本	一	八・〇〇	二七	故先生追薦の時集まりし傑作五十餘點を精巧なる玻璃版に附せしものなり
竹園畫集	水田竹園	和裝中本	一	三・五〇	一八	本邦南畫界の重鎮たる先生の作品凡五十圖を鮮明なる玻璃版に附したるものなり
浴沂畫譜	同	同鉄入	一	三・五〇	一八	竹園畫集發行後に於ける先生快心の作品五十圖を收めたる瀟灑なる書冊なり
關雪散民畫集	橋本關雪	大玻璃本	一	三・五〇	一八	南畫界の泰斗として將又帝成委員たる先生の傑作六十一圖を鮮明なる玻璃版に附したるものなり
關雪甲子畫集	橋本關雪	四六四倍 彩色及玻璃袋入	二	七・〇〇	三六	南畫界の泰斗關雪氏の優作二十圖を原色版印刷及玻璃版を以て印刷せしもの第一集第二集の二袋に成り
山高水遠	越智東暎	大玻璃本	一	三・五〇	一八	故田近竹邨先生門下なる氏の近作を印刷に附せしものなり
翰墨布施	大村西崖	和裝鉄入	一	三・八〇	一八	先生の筆趣は南畫家としてすでに世に定評あり本畫は其優品五十圖を收めたり
妙蹟圖錄	神木鳴津	和裝鉄入	一	一・〇〇	一〇	諸名家秘藏の幅中其逸品和畫部六卷百三十枚收むる百貳圖、漢畫部四卷八十七枚百貳拾參圖を定評ある竹田の畫並に贊藤崎小竹賴山陽外四大家の跋、精巧なる本帖を田近竹邨氏存命中請ひて寫し精なる印刷に附せしものなり
亦復一樂帖	田能村竹田	半紙版	一	七・五〇	二七	大評ある竹田の畫並に贊藤崎小竹賴山陽外四大家の跋、精巧なる本帖を田近竹邨氏存命中請ひて寫し精なる印刷に附せしものなり
池大雅薦事餘光	大雅堂遺墨	大形鉄入	一	八・五〇	三六	大雅堂百五十年忌に當り其遺墨選品六十餘種及び文人墨客の必ず一本を備へらるべきなり

書名	著者	装幀	冊數	正價	郵税	内容概要
翠雲小品畫集	小室翠雲	半紙和装本	一	一・八〇	一八	翠雲小室氏の近作小品三十點と卷一點を精巧なる印刷の作風を窺ふに絶好の書なり
江城余韻	小室翠雲	和紙和装本	一	四・五〇	二七	我が國南畫界の重鎮翠雲氏其筆の向ふ所雅趣あり餘韻に於ては優作七十點を収めしもの遊ばし餘韻に於ては優作七十點を収めしもの遊ばし
支那花鳥畫冊	京都恩賜博物館展覧	和紙和装本	一	二・〇〇	五四	恩賜京都博物館特別展覧の催しに附し各名畫支那花鳥十餘幅を精巧なる印刷に附し各名畫
玉堂名畫纂	布施萬載藏	大形装本	一	三・五〇	二七	浦上玉堂遺墨の内より逸品二十點を撰び玉堂の筆蹟を傳へたる良參好書なり
玉堂琴士遺墨集	橋本關雪編	和紙和装本	一	一五・〇〇	五〇	浦上玉堂遺墨の内より逸品二十點を撰び玉堂の筆蹟を傳へたる良參好書なり
日本南畫院第一回圖録	日本南畫院	四六倍判	一	二・五〇	一八	挿畫三十一點大正十年度
日本南畫院第二回圖録	日本南畫院	同	一	三・五〇	一八	挿畫四十九點大正十一年度
日本南畫院第三回圖録	日本南畫院	菊倍判	一	六・〇〇	二七	挿畫七十五葉大正十三年度
日本南畫院第四回圖録	日本南畫院	上質用紙	一	七・〇〇	二七	挿畫百壹點大正十四年度
日本南畫院第五回圖録	日本南畫院	同	一	六・〇〇	二七	挿畫九十八點十五年度

書名	著者	装幀	冊數	正價	郵税	内容概要
日本南畫院第六回圖録	日本南畫院	同	一	六・〇〇	二七	昭和二年度出品作品九十三點
日本南畫院第七回圖録	日本南畫院	同	一	五・五〇	二七	昭和三年度出品作品六十二點
日本南畫院第八回圖録	日本南畫院	同	一	六・五〇	二七	昭和四年度出品作品九十四點
日本南畫院第九回圖録	日本南畫院	同	一	近刊		昭和五年度出品作品
翠雲四君子畫冊	小室翠雲	畫箋紙刷	一	六・五〇	三六	蘭竹梅菊の畫法を説いた南畫習畫必備の畫手本繪は勿論原畫もそのまゝコロマイブ版とし
翠雲四君子畫冊	小室翠雲	畫箋紙刷	一	六・五〇	二七	前書は鑑賞用として掛額にするも恰好のもの立とせり印刷は前書と同一なり
翠雲花卉畫冊	小室翠雲	彩色刷本	一	近刊		
石濤老人杜陵詩意圖	水田竹園氏	大形装本	一	三・〇〇	二七	卷頭の木版玻璃掛合せ及び精巧なる玻璃版
石濤花卉畫譜	西澤笛畝	大形装本	一	一・五〇	一八	石濤蘭竹畫譜にては墨蘭の眞蹟八幅を收め
鴨波居士遺墨集	安田栗郷	大本和装本	二	五・〇〇	二七	直入門の逸足鴨波安田氏の遺墨百點を晩年迄
大名家南畫集	芸紳堂	四六倍判	一	近刊		

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概意
祐信風俗畫譜	西川祐信	木半紙刷本	三	一・二〇	一八	此書は中古時代上は王侯より下庶民に至る迄の風俗を寫し宛然眞に迫れり
諸大家人物畫譜	福井月齋	彩半紙刷本	一	一・〇〇	一八	應舉、廣雪、探幽、雪文、是眞等諸大家の人物畫四十五圖を縮寫木版彩色刷に附せり
近世畸人傳	三伴海堂畫	木大版刷本	十	六・〇〇	三六	儒家僧家歌人隱者諸藝の人すべて奇なる行狀其人の詩歌文章に至る迄氣象の見るべきものを集めたり
本朝列女傳	黒澤弘忠	木大版刷本	十	七・五〇	三六	上は后妃傳より下妓女傳に至る迄凡そ二百二十餘人を舉げ其傳記を詳かに記せり
有列仙全傳	王世貞	同	八	七・五〇	三六	本書は百篇群書を涉獵し古來の列作五百餘人を擧げ一讀せば其史籍參考なるもの決して尠に非ざるべし
唐宋大家像傳	河原英吉	木中版刷本	二	八〇	六	本書は唐宋二十四大家の畫像を挿入したる傳記書なり
聯珠百人一首	冷泉爲恭	淡大彩刷本	一	四・五〇	二七	畫は爲恭、書は喜村行納にして内容は既に世に定評あり江湖の士須く一本を手にせられん事を
鶴壽百人一首	姫鑑	木大版刷本	一	一・五〇	一八	百人一首の外頭書には幼童訓を始め源氏香の圖小笠原流折形其他十五項に渡り詳細記せり
歴史畫譜	芸艸堂	彩大色刷本	一	一・〇〇	四	香蟠、芳文、百年等其他十二氏の筆になれる歴史畫を悉く木版彩色刷を以て收む
風俗畫譜	同	同	一	一・〇〇	四	諸大畫家の筆になる風俗畫十二枚を收めたり木版刷美麗なる冊紙なり

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概意
古代風俗畫譜	同	同	二	二・〇〇	六	源氏夕顔之巻を始め北野縁起、靜物語、正賣年間風俗繪巻等の古代風俗二十四枚を悉く彩色刷を以てす
人物畫譜	同	同	一	一・〇〇	四	玉堂、米庵、春舉外九大家が各自特意的筆を揮ひたる和漢の人物畫を收む
土佐名家畫譜	福井月齋	彩二色刷本	一	一・〇〇	四	土佐家は日本畫の正宗なり我國美術の濫觴なり其土佐家の二明星たる光起、光成の逸品を蒐めたるは本畫譜なり
中古美人競	同	袋二彩刷本	二	二・〇〇	六	和漢の美人畫二十四圖悉く諸大家の筆になれるを臨摹せるものなり
容齋歴史畫譜	同	袋十彩刷本	一	一・〇〇	四	夙に歴史畫を以て天下に鳴る先生の筆意神作にして今眼前に昔時を追想し感慨を起さしむるに足る
今様美人	中島春郊	同	一	一・〇〇	四	春郊氏が十二月に分ちて今様の美人を描きしもの例へば一月が令嬢羽根遊之圖の如し
能狂言畫譜	西山完瑛	同	一	一・〇〇	四	能畫八圖狂言畫四圖を完瑛畫伯特意的筆にて描きしものなり
美人畫譜	上村松園	彩大色刷本	一	一・〇〇	四	美人畫の泰斗たる松園女史の傑作になる美人畫十二枚を集めたるものなり
海傳二十四孝之圖	小田海傳	唐大紙刷本	三	三・〇〇	一八	古來漢の二十四孝圖を描き分類二十四孝譯本を附す
晚咲堂畫傳	竹莊先生	白大紙刷本	三	四・〇〇	二七	漢士名士の畫傳にして菊池容齋著前賢故實は本書に倣ひて作られたり
人倫訓蒙圖彙	蒔繪師三郎畫	木半紙刷本	七	四・〇〇	二七	上は王侯貴人より下は庶民に至るまで生活の狀態及生涯人倫の踐むべき行狀等細大漏さず描寫し解説を加へたり

人物畫

人物 (寫眞版)

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
歴史風俗畫譜	谷口香蟠	大形本 玻璃版	一	四・〇〇	二七	歴史に通じ考證に精しき香蟠畫伯の製作を 集めたる本書は畫家歴史家教育家の好資料 たり
遺香畫集	同	大形本 鉄入美本	一	二〇・〇〇	五四	本書收むる所百五十圖何れも遺墨展覽會に 出品せられたる諸家の逸品にして畫伯一 代の傑作なり
能樂泰斗 金剛之助 舞影一班	本願寺 御藏版	大形本 鳥ノ子刷	一	五〇・〇〇	二七	これぞ平安能樂界の泰斗金剛氏の舞影の一 秘蔵の古面をも收めたり
歴代風俗寫眞集 第一集	風俗研究会	半紙本 附和英解	一	一・〇〇	四	扮装○懸想文賣○鎌倉時代武士甲冑姿○徳 川初期遊女姿
同 第二集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○山伏の風俗○江戸中期廊通ひの風俗 ○享保時代上流女姿
同 第三集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○鎌倉時代下級武官正装○江戸中期美 人打袴の姿○南北朝時代武將小具足姿
同 第四集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○大和萬歳の風俗○江戸時代中期婦人 旅姿○難察の風俗
同 第五集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○鎌倉時代大鏡の風俗○小松谷正林寺 獻燈會の風俗○今宮やすらい祭の風俗
同 第六集	同	同	一	一・〇〇	四	

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
歴代風俗寫眞集 第七集	同	大形本 附和英解	一	五・〇〇	二七	本書は寫眞集の臨時増刊にして小村大雲氏 の鑑着初式の圖七十三種を鮮明なる玻璃版 に附せしものなり
同 第八集	風俗研究会	半紙本 附和英解	一	一・〇〇	四	扮装○平安朝末期公卿の衣冠の風俗○江戸 時代末婦人風俗
同 第九集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○平安朝武人略装○徳川季世より明治 初年に至る間京都に流行したる女子の装○ 鎌倉時代の童子の風俗
同 第十集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○鎌倉時代武士狩装束○盧無僧の風俗 ○白拍子の風俗(其一)
同 第十一集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○子ノ日の小松引の風俗○白拍子の風 俗(其二)
同 第十二集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○賀茂御蔭祭の舞人の姿○江戸中期雨 中の男子姿○中世女子外出姿(狂言一貫ひ 婿)の風俗
同 第十三集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○上古の男子の風俗○江戸時代中期遊 女装束の姿○狂言「清水」の風俗
同 第十四集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○江戸時代武家大禮装○戦國時代戦士 の風俗○桃山時代の婦人風俗
同 第十五集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○平安朝初期の風俗を有せる太秦神像 の風俗○室町時代下僕の風俗○鎌倉時代童子竹馬遊 の風俗○大覺寺殿後字多法皇御興○鎌倉時代 武士風俗○鎌倉時代雑兵風俗○享保頃の花 見美人の風俗
同 第十六集	同	同	一	一・〇〇	四	扮装○大覺寺殿光格天皇の御小直衣○江戸 時代前期の奴姿○江戸時代中期の狂言 一貫ひ物賣の風俗
同 第十七集	同	同	一	一・〇〇	四	

我邦浮世繪研究の唯一の機關

浮世繪志會同人編輯

月刊

浮世繪志

浮世繪研究隆盛の今日浮世繪を單なる美術品としてでなく我國文化史上に重要な位置を占むべき對象物としてこれを種々の方面から觀察し研究して平易に且つ普遍的に紹介せんとするもの本誌なり毎號編輯同人執筆は勿論専門大家の論叢記事滿載多數の口繪と相俟ち蓋し無二の浮世繪研究資料たるものなり。

半紙判和紙刷本綴美本

表紙 木版數度刷 口繪 玻璃版四葉

挿圖 每號多數 毎月一回發行

定價 一冊 金七拾錢 (郵稅貳錢)
六冊 金四圓拾錢 (郵稅共)
十二冊 金八圓

但し海外は別に申受く

◆浮世繪志合本出來◆

第壹卷 自初號 至四號 第貳卷 自五號 至八號

第參卷 自九號 至十二號 第四卷 自十三號 至十六號

第五卷 自十七號 至二十號 以下漸次刊行

各卷 定價金參圓 送料拾八錢

◆特輯號出來◆

▲廣重號 ▲春信號

(價格各七十錢 送費二錢)

桑原羊次郎氏著

增補浮世繪師人名辭書

半紙三切判和紙和製携帶至便

浮世繪研究家鑑賞家初步者が座右に一本必備の寶典にして卷末に著者獨制の浮世繪師早見表を附す

定價 壹圓五拾錢
發費 六錢

浮世繪名画全集

覆刻再版

全部木版手摺和裝帙入 ▼特價金五拾圓
八十七卷合本全三十五冊 ▼送料金壹圓

近時浮世繪の聲價非常に高まると共に我國の特長なる木版畫の趣味も復興し殊に師宣、祐信等の名流が時代々々の好尚標準に従て變化し行く風俗人情を描きしものには一種の精神ほのめきて世の齊しく鑑賞する所なり其原本に至りては容易に得易からざりしを今浮世繪名畫全集として上は享保元祿より下は文化の盛に至る諸名家の筆に成りし當代世間に稀なる珍籍を選び再刻刊行し其内容は全部木版手摺にて寸毫も原畫の眞を失はざれば好古家藝術家の好資料たるべきは勿論家庭にありては娯樂として珍蔵すべき良書なり

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概要
和國百女	菱川師宣畫	三卷合本	一	三〇〇	一八	本書は元祿八年の出版にしておもに中流以下の婦女の狀態を畫きたるものなり頭書には説明と家庭訓とをまじへ記せり
岩木繪盡	同	二卷合本	一	二〇〇	一八	岩木繪盡二卷は菱川師宣の筆にして中流以下の男女の遊戯と唐人物水禽樹木岩石等を畫きたるものなり
美人繪盡	同	三卷合本	一	三〇〇	一八	此の書は天和三年の出版にして和漢の烈女を畫けるものなり頭書には各その説明を記せり
和國諸職繪盡	同	四卷合本	一	二〇〇	一八	土佐光信、(永正頃)の筆と稱する七十一番歌合の内四十三番を抜きて今様に畫きたるものなり本書は貞享二年の出版なり

浮世繪名畫全集

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
繪本世都之時	北尾重政	三卷合本	一	三・〇〇	一八	本書は俳諧歌に據り四季の風俗繪を畫きしものなり一陽井素外の序文あり安永四年の出版に係る
繪本吾妻扶	同	三卷合本	一	二・〇〇	一八	江戸の名所に風俗繪を畫き更に狂歌を賛したるものなり此の書寛政九年の出版に係る
繪本吾妻の花	同	二卷合本	一	一・〇〇	一八	江戸市中の名所と風俗繪と故事とを交へて畫きたるものなり本書明和五年の出版にかゝる
當世かもし雛形	安部玉腕子畫	一巻	一	一・〇〇	一八	女子の髪結形二十六種をかもし形餘種を必要なる参考書なり
役者夏の富士	勝川春章畫	一巻	一	二・〇〇	一八	本書は御殿女中其の他芝居見物の圖を始め芝居茶屋の圖次に俳優平素の狀態を四季をりたり配し似顔を以て畫きたるものなり
繪本紅葉橋	勝川春潮畫	一巻	一	一・〇〇	一八	本書は七夕に附きての風俗を畫きそのなり但し狂歌は要なれば省略せり
四季交加	山東京傳畫	二卷合本 寛政十年版	一	二・〇〇	一八	本書は江戸市中及び郊外の名所は當時の風俗を畫き江戸市中の狂歌を賛したるものなり此の書天明六年の出版に係る
繪本江戸爵	喜多川歌麿畫	三卷合本	一	二・〇〇	一八	本書は江戸市中及び郊外の名所は當時の風俗を畫き天明六年の出版に係る
繪本駿河舞	同	三卷合本	一	二・〇〇	一八	此の書寛政二年の出版に係る
青樓年中行事	同	二卷合本 享和四年版	一	三・〇〇	一八	本書は一名吉原年中行事といふ所謂中にて於ける重なる年中行事の一部と他の一種の習慣とを畫きたるものなり

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
十二富士	竹内栖鳳	彩色仕立	一	二・五〇	一八	東洋無二の靈山が變化極りなき四時の好景を捉へて巧みに快筆を揮ひたるものなり
雍府畫帖	竹内栖鳳 谷口芳文 山元春舉	彩色仕立 彩色仕立 彩色仕立	三	四・五〇	二七	洛陽の勝景三十一を京都の四大畫家が描寫せられしもの蓋四大畫家筆の健筆に成れり
都名所二十五景	森川曾文	彩色仕立	一	三・五〇	二七	洛中洛外の名所三十五景を選で曾文畫伯が妙筆によりて寫されたるもの即ち之なり
平安名勝	京都諸先生	彩色仕立	一	二・五〇	一八	此冊は故山縣公の所藏にして現今の名家十二作なり
東海道腰栗毛畫帖	十返舎 爲一原著 信畫伯筆	木版彩色 刷大形 入解附	二	二・五〇	五〇	海次喜太の兩人が江戸は日本橋を振出しに東海道五十三宿に至る所特筆の滑稽を演出して行く圖は解説と相俟ち笑を禁ずる事を得ず
諸大家山水畫譜	諸大家	半紙刷本	一	一・〇〇	一八	應舉、吳春、景文、素絢、竹田等諸大家の山水畫四十七圖を縮寫木版彩色刷を以つてせり
神都名勝誌	神宮司廳	大紙刷本	七	一五・〇〇	五四	舊記により實地を踏み名所古蹟を勿論神都及各家の筆に於て一切を詳細に記述し挿畫は悉く本畫は北齋の筆に於ては奇拔なる富士山の百景を描きたるものあり
富嶽百景	葛飾北齋	半紙刷本	三	四・五〇	二七	東海道五十三宿の道中の有様、其風景人物を寫したり此繪に對せば身は其境遇にあるが如き心地せむ
北齋道中畫譜	同	半紙刷本	一	一・五〇	一八	蕙齋得意の筆を走らすこゝろ此山水略畫式なり輕妙云ふべからず
山水略畫式	欽形蕙齋	大紙刷本	一	二・五〇	一八	

山水、風景

山水、風景畫

上品で高尚な俳句かるた

小林榮子女子史案
鈴木朱雀先生畫



兒童が春の遊びに、自然に教訓となり、
趣味の深まるかるた、贈り物としても絶好の品、

坊間「いろはかるた」には、随分下品な詞があつたり、いやな繪があつたりするのを遺憾とし、女史多年苦心
今少し品のよいのなとこ、に句選といひ、俳畫と云ひ、精巧な木版印刷と相俟ち申分のない「模範教育かる
た」として發行の運びに至る。尙別冊として解説を附したれば、句の意義をも兒童が容易に知る事が出来、心
ある家庭に永くから求められてゐた、眞の教育「俳句かるた」である、と共に大人の遊びとしても趣味深きもの

取札全部木版彩色九度刷
讀札別冊解説附

桐箱入 特別 京仕立

定價 金 參圓
送料 貳拾七錢

東京都寺町二條南 電話 二九〇八
東京都上野 電話 二九〇八
東京都下谷三六〇
東京都本郷三六〇
東京都池袋三六〇
東京都目黒三六〇

山水風景

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	内見概意
近世山水畫譜	芸艸堂	彩色刷本	二	二〇〇	八	本書收むる所山水畫二十四圖何れも互世名家 の筆になり其一番一彩におのがじし靈妙の美 を運び来る
富士山	小川一眞	大形刷本	一	二五〇	一八	山委秀麗影鮮明なる寫眞版さして發行せり ケ所より撮影鮮明なる寫眞版さして發行せり
和對照花洛林泉帖	碓井小三郎	庭園製部	一	二〇〇	四五	上は千古の名苑より下は近代の經營に保るも のまで五十餘園を遺み繪は前人の未だ曾て爲 さざる名物石燈籠を遺み繪は前人の未だ曾て爲 さるる迄船石燈籠を遺み繪は前人の未だ曾て爲 類に至る迄船石燈籠を遺み繪は前人の未だ曾て爲 若くは傳來の附し詳細を蒐め之が位置時節の 施し況く海の内外に詳細を蒐め之が位置時節の 送料貳拾七錢を要す
同 燈籠及名石類部	同	大形表本	一	二〇〇	四五	同
富士三十六景	一立齋廣重	大形刷本	一	一五〇	三六	木版彩色刷にして三十六圖を収む此外に北齋 筆富士三十六景を要す
東海道五十三次	同	大形刷本	一	一五〇	二七	世人が賞揚する保永堂版を複製せしものなり 畫家圖案家の參考として絶好の畫なり
諸國名所風景	豐國筆	同	一	九〇〇	二七	江湖の土の尤も望まる、豐國筆諸國風景二十 七圖を収む悉く極彩色木版刷になれり
近江八景	一立齋廣重	半紙帖本	一	三五〇	一八	瀬多唐橋、唐崎夜雨、石山秋月、比良暮靄、三 景を収む 粟津晴嵐、堅田落雁、矢走歸帆の八 景を収む
日本名所	一男齋國芳	同	一	三〇〇	一八	一男齋國芳の筆になる日本名所八景を収む悉 く木版彩色刷なり
日光	北村製版所	美術色製	二	五〇〇	二七	天下の勝景たる日光二十四景を撮影悉く精 無比の原色版印刷に附したるもの本畫を手に して結構の旨を發す可く掛置さして亦結構

花鳥、動物

花鳥、動物畫

書名	著者	装幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
景年花鳥畫譜	今尾景年	大形入刷本	四	五〇〇〇	一〇〇	花鳥畫の名手景年伯の畫筆により四時の花鳥を寫して一帙の裡にあり實に斯道の一大寶典なり
煤嶺畫譜	幸楚棟嶺	彩色刷本	三	二五〇	一八	天地人三卷よりなり天地の卷には花鳥を人携帶至便の良書なり
亥中の月	同	彩色刷本	一	一〇〇	一八	亥中の月は鳥獸魚介の寫生にして煤嶺畫譜と併せて見るべきものなり
十二支帖	竹内栖鳳	彩色刷本	一	二〇〇〇	二七	先生の筆はすでに世の定評あり其十二支畫なるや一般愛畫家の激賞湧くが如し江湖の諸士須らく本書を繕き見よ
芳文畫譜	菊池芳文	彩色紙刷本	一	一〇〇	一八	芳文先生は花鳥畫の名手なり其書得意の傑作五十圖を收め序畫は櫻月玉緒先生の筆に
小禽の峙	松井由谷	同	一	一〇〇	一八	本書收むる所先生の傑作四十餘圖を以てす斯道に心あるもの必見書なり
完瑛畫譜	西山完瑛	畫帖仕立	一	四〇〇	一八	完瑛畫伯の花鳥草木に巧妙を得たるは今更喋々贅言を要せず本畫譜に描出する所は其妙中の巧なる者なり
花鳥漫畫	瀧澤清	彩色刷本	一	八〇	四	携帶至便なる書にして一般習畫者の一指南車たるべきなり
花鳥之部	滑龍堂畫譜	彩色紙刷本	一	一五〇	一八	本書收むる花鳥の圖四十圖悉く木版彩色刷になれり

花鳥、動物

書名	著者	装幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
英章百鳥畫譜	竹内栖鳳校 土田喜園筆	大形刷本	一	七〇〇	二七	本書は故土田英章翁が其一代を鳥類の寫生に丹精を凝らし拵本數十冊の多きを孫栖鳳門下にて喜園女史の篋底に秘藏せられし處今回栖鳳先生の校閱を経て公にせられ各二十餘圖を收めたり本書出ると其好評湧くが如く再版又再版を重ねるは實に其内容が悉く忠實なる寫生に依るものにして今第
同 第二卷	同	同	一	七〇〇	二七	四卷を以て百鳥を大參考書として座右に備ふべき書なり
同 第三卷	同	同	一	七〇〇	二七	守國筆花鳥動物二十八圖を收めたり
同 第四卷	同	同	一	七〇〇	二七	此書を一閱せば翁が如何に花鳥圖に非凡の手腕を有せしを知らん
花鳥畫傳	葛飾北齋	同	二	三〇〇	一八	嗜酒たる畫帖仕立にして木版彩色刷十圖を收めたり昔く習畫者に薦む
省亭花鳥帖	省亭流	彩色刷本	一	一五〇	一八	本書收むる花鳥五十圖は悉く春名氏の非凡の手腕を發揮せしものなり昔く人士にすむ
花鳥畫集	春名錦山	彩色刷本	一	二五〇	一八	十六大家の筆になる花鳥畫二十四圖を收む
名家花鳥畫譜	芸辨堂	彩色刷本	二	二〇〇	八	花鳥習畫者の一大寶典なり
動物虫魚畫譜	同	同	一	一〇〇	四	動物畫八圖虫魚畫四圖を全部木版彩色刷を以てせり十二大家の筆になれり
鳥獸略畫式	鐵形蕙齋	彩色刷本	一	二五〇	一八	此鳥獸略畫式は鐵形蕙齋得意の筆を走らす所輕妙云ふべからず

草花、虫類

◇候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◇

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
四季の花	酒井抱一、鈴木其明	彩色刷本	十	三五〇〇	八〇	本書四季に分ちて十巻となし集むる花卉一千種に及ぶ新道に於ける有益の書と云べし
西洋草花圖譜	谷上廣南	同	五	二〇〇〇	四五	西洋草花を四季に分ち綿密詳細に寫せし物四季の花を併せて見るべき物なり
象形花卉帖	同	大形彩色刷本	一	一八〇〇	四五	國華としての菊は殊更、牡丹は菊に次ぐ其應用廣きものとして繪畫に圖案に染織に一般美術工藝家の參考として必需のものなり本書は先に西洋草花圖譜を編せられたる靈々たる谷上氏が多年牡丹の寫生に努力せられたる木版彩色刷に附せしものなり
同	同	同	一	一八〇〇	四五	櫻葉百八種を精巧なる木版數十度刷りなしたる一冊を附す
櫻花圖譜	三好學	極彩色刷本	二	三五〇〇	一〇〇	櫻葉百八種を精巧なる木版數十度刷りなしたる一冊を附す
櫻花概説	同	半紙刷本	一	五〇〇	一八	口繪には玻璃版圖三十六葉を収め櫻の種類と名所に關する略史、普通の櫻の三種に分けて説き終る櫻の形を彩色總計一百種を擇み終りに花名進歩の圖五葉を添へ別に花菖蒲解説一冊を附す
花菖蒲圖譜	同	極彩色刷本	四	三五〇〇	一〇〇	花菖蒲の形を彩色總計一百種を擇み終りに花名進歩の圖五葉を添へ別に花菖蒲解説一冊を附す
若冲畫帖	伊藤若冲	大形彩色刷本	二	二〇〇〇	三六	元祿の光琳に對して明和の若冲が更に如何なる方面に其絶代の大手腕を伸せしか本書を見よ
若冲畫譜	同	大形彩色刷本	四	二〇〇〇	四五	一世の大畫伯斗米庵若冲居士の名畫を臨摹したるものなり美術工藝家は本書あるを忘るべからず

◇候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◇

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
野山草	橋保國	木版刷本	五	四〇〇	二七	野山草二百五十種は悉く保國の筆になり解説の詳細なる事又木版新刻を以てしたれば其鮮明他に類を見ず
櫻花品	松岡怡願齋	彩色刷本	二	一五〇	一八	徳川幕府中期頃京都其他に存在せる櫻の品種六十九種を擧げ一々圖を説明せり首に山崎蘭齋の「櫻の辨」を載せたり
梅花品	同	同	二	一五〇	一八	櫻品の姉妹種として替く人の好評湧くが如し梅花六十餘種を収め解説を附す氣持良き携帶至便の書なり
草花略畫式	銀形蕭齋	彩色刷本	一	二五〇	一八	此の草花略畫式は蕭齋先生得意の筆を走らするところ輕妙云ふべからず
草花百種	同	彩色刷本	四	六〇〇	二七	本書は其題名の如く山野の草花を描寫せし者にして採圖畫譜友中の月と共に要用なる寶典なり
草花百種	同	彩色刷本	四	六〇〇	二七	山野の草花二百種を擇みて寫生したるもの姉妹種なり
契華百菊	長谷川契華	彩色刷本	三	一〇〇〇	三六	著者が綿密詳細に寫生せる菊花の種類三千餘種の中其優秀なるを百種選び上梓せり
珍花圖譜	山名友石	同	二	三五〇	一八	第五回内國勲業博覽會植物温室に陳列せられたる珍花奇草の眞を描寫し詳細なる解説を附したり
蟲類畫譜	竹内栖鳳、森本東閣、菊池芳文、森本東閣	半紙刷本	一	一五〇	一八	採圖の息森本東閣先生が多年に渉り寫生せられたる蟲類五十餘種に彩色を施し刊行せしものなり
時下選蝶	筆者不詳	彩色刷本	一	一五〇	一八	本書は美圖なる畫帖仕立にて集むる所の虫類三十餘種を彩色刷に併せて見るべきものなり
むさし野	田中鶴石	彩色刷本	一	一〇〇	四	主に草花、花鳥畫にして實にむさし野の名にそむかず木版彩色刷になれり

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
北齋漫畫	葛飾北齋	半紙本 木版彩色 刷紙入	一五	二五・〇〇	五四	北齋翁が閑毎に意に任せ筆に隨ひ古今東西を問はず山水人物鳥獸虫魚草木草堂字器材等に至る迄描きしものなり
一筆畫譜	同	彩色紙本 半紙刷本	一	一・五〇	一八	翁が福善齋彩文の筆をまねて何くれさなく畫き蒐めたるものなり其筆意雄健にして妙趣あり
傳心畫鏡	同	同	一	一・五〇	一八	得意の筆になる人物、山水、風景、花鳥、虫魚等を畫きたるものなり
北齋畫譜	同	同	三	四・五〇	二七	北齋翁の手になれる畫を集めたるもの氣形は更なり非情の山川草木もおのづから畫中に靈妙を示す
北齋新雛形	同	同	三	四・五〇	二七	花鳥草木人物山川等、北齋の筆になれるものを烟金鶏なる人の集めたるものなり
北齋臨畫	同	同	一	一・五〇	一八	神社佛閣の寫法、四柱の鳥居、八種の樓門船館、橋の反り、幕の法等其他諸細工の樓下繪を畫きしものなり
北齋新雛形	同	同	一	一・五〇	一八	北齋翁が妙筆を振ふて人物花鳥を畫きたるものなり
三體畫譜	同	同	一	一・五〇	一八	書に三體ある如く畫にも三體あり此書は人物山水花鳥草木禽獸を眞行書三體に畫きしものなり
惠齋鹿畫	歟形薰齋	同	五	五・〇〇	二七	薰齋得意の快筆になる人物山水草木禽獸を蒐めしもの其筆の落つる所輕妙無比なり

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
和漢衆畫苑	和漢古名家	木大版刷本	四	三・〇〇	一八	和漢古名家の筆意を摸したるものにして、漢畫を學ぶもの、必ず備ふべきものなり
扶桑畫譜	橋守國	同	四	三・〇〇	一八	和漢名家の畫を縮寫して其畫風筆意を示したるものにて、鑑畫の好資料なり
光琳畫譜	尾形光琳筆 谷口香蟻模寫	彩色大形 紙刷本	一	七・〇〇	二七	光琳の筆になる扇面畫其他香蟻畫伯が臨摹木版彩色刷に附せしもの巻頭に光琳の遺印を載せたり
光琳新選百圖	尾形光琳	彩色大形 紙刷本	二	四・〇〇	一八	本書は光琳の能く其眞を寫したれば一般の意匠家及美術工藝家の應化するに絶好の參考書なり
抱一上人眞蹟鏡	抱一上人	同	二	三・五〇	一八	光琳筆の幅中及屏風畫の優秀なるもの又扇面扇畫等に至る迄凡そ百五十圖を縮摹せり
光琳略畫	尾形光琳	彩色大形 紙刷本	一	三・五〇	一八	前記の書に倣ひて抱一筆になる人物山水花鳥草木等を網羅せるもの美術工藝家の大寶典なり
光琳道しるべ	同	彩色大形 紙刷本	一	五・〇〇	二	光琳先生の畫集にして奇想天外より落つる趣きあり畫を修めんとするものは見ざる可らず
文晁畫譜	谷文晁	彩色大形 紙刷本	二	三・〇〇	一八	光琳の畫法を學ばんとする者の爲に簡單なる草花の描法を示したるものなり
行成卿六歌仙	冷泉爲恭	彩色大形 紙刷本	一	一・五〇	一八	有名なる行成卿の六歌仙を爲恭が寫せしものにして下繪は淡彩刷を以てせり

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
名家百扇畫譜	山田松溪	彩色紙刷本	四	五・〇〇	二七	浪花諸大家の秘蔵になる探幽、光琳、應舉、吳春、景文、廣雲の素繪等百名家の扇面畫を縮寫したる稀世の珍本なり
曉齋畫譜	猩々曉齋	同	二	七・〇〇	二七	河鍋曉齋翁の健筆になりたる花鳥虫魚山水圖を收めたり委く木版彩色刷になれり
浮世畫譜	溪齋、廣重	同	三	四・五〇	二七	各種の人物物像を畫きて浮世畫風の範を示したる簡易なる畫手本なり
繪本詠物選	和漢	木版紙刷本	三	一・五〇	一八	式三番圖を始めとして源氏繪武者繪等其他和漢の人物山水を描きしものなり
繪本寫寶袋	橋有税	同	二	一・五〇	一八	和漢の人物山水花鳥、禽獸共器、御殿等を畫き詳細なる説明を附せしものなり
うなるの友	清水晴風	彩色刷本	六	二・〇〇	四五	晴風翁が多年の苦心によりて蒐集せられたる和國古来の玩具數百種を自ら手寫して編せられたる稀世の珍書なり
同續編	西澤笛畝	同	四	一・四〇〇	三六	遺徳「うなるの友」の完結を見ずして致せられたる晴風翁の遺稿を繼いで後編を編せられたるものなり
玩具の話	天沼翰村	挿畫六入判	一	一・八〇	一八	本書は兒童を中心とせる玩具の研究と大人の散賞に資する玩具の説明を書きしものにして亦うなるの友の解説共なれり
日本玩具集	兒童用品研究会	彩色刷本	三	七・〇〇	二七	本書は千九百十一年獨逸ドレスデン市に於ける博覽會へ出品なし好評を博せし我國の古來より廣く永く兒童に喜ばれる物を網羅せり
壽々々	山内神斧	彩色刷本	二	六・〇〇	二七	本書は實に趣味多き外國の玩具凡そ百三十點を寫し以て木版彩色刷に附せしものなり大供衆の好評湧くが如し

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
雛百種	久保田米齋	彩色刷本	四	一五・〇〇	二七	故西澤仙湖翁が遺愛品數百種の内より優秀珍奇なる者を選み丹精を凝して寫したる木版彩色刷の姉妹篇として畫伯が特に尙武的氣風を始め美術家及一般家庭の唯一の座右書なり
端午玩具集	西澤笛畝	彩色刷本	二	一五・〇〇	三六	雛百種に續いて西澤氏が珍道樂の一と評したる端午の珍書なり
雛と人形	西陣織物館	彩色刷本	一	二・五〇	一八	有職難、寛永難、京人形、御所人形等其類凡そ二百五十點を蒐めたるものにして詳細なる解説を記述せり
國繪馬集	西澤笛畝	彩色刷本	二	七・〇〇	二七	本書は雛百種の著者西澤氏が珍道樂の一と評したる國繪馬の珍書なり
玩具集	西澤笛畝	彩色刷本	一	三・五〇	一八	玩具は云へば西澤さんご殿谷小波氏が序文に「お面研究家秘蔵品の内より百三十點を選ばし、能面、狂言神樂、舞踊、内外玩具等の部分編纂になりし専門家及美術家の良参考書なり
面とマスク	渡邊霞亭序	彩色刷本	二	一〇・〇〇	二七	「海外のマスク」并に内國の能樂、玩具面其他總ての面を蒐聚せる木版彩色刷の美麗帖なり
御所人形	久保佐四郎	彩色刷本	三	四・五〇	一八	御所人形はそのかみ堂上方の玩具にして俗に「おみやげ人形」といづくら人形と稱へて典麗なる趣を愛好する人今こ多し
國繪馬百種	谷口桃僊畫	彩色刷本	一	二・五〇	一八	本書は傳説神祕的なる田舎の小宮や辻堂の狐匠圖案の奇抜なるものを集めたり
米僊漫遊畫乘	久保田米僊	同	二	三・五〇	一八	米僊伯歐米に遊ばるゝや觀るに隨つて筆を取り到る處の風景習俗を寫されたるもの之なり
梅嶺畫鑑	幸莖株嶺	彩色刷本	七	八・〇〇	三六	山水人物禽獸虫魚果物等に至るまで千種萬能り習畫參考の寶典なり

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
守住貫魚畫譜	守住周魚	彩色二色刷	一	一〇〇	四	故帝室技藝員守住貫魚先生の傑作十二圖を周魚氏が縮寫せるものなり
應舉聚美畫譜	福井月齋	彩色二十四色刷	二	二〇〇	八	貴紳舊家の珍藏に係る應舉筆の名品二十四圖を縮寫せるものなり其参考に廣き事喋々を要せず
狩野聚美畫譜	同	彩色二色刷	一	一〇〇	四	狩野派十二大家の逸品たる畫十二圖を集めしもの狩野派の筆を知らんとするもの、必備書なり
近世聚美畫譜	同	同	一	一〇〇	四	寛齋、抱一、文麟、是眞、素絢、岸駒等十二大家の筆になる傑作圖を木版彩色刷に附せしものなり
中古聚美畫譜	同	彩色二十四色刷	二	二〇〇	八	本書收むる二十四圖には花鳥あり山水あり人物あり悉く名家の筆にかゝり習畫者の好参考書なり
中古諸名家畫譜	同	彩色六色刷	一	一〇〇	四	吳春、應舉、蘆雪、景文、蕉村、椿山等中古に於ける六大家の筆になる圖を縮寫せるものなり
蘆雪畫譜	同	木版二色刷	一	一〇〇	四	蘆雪の筆になる人物動物を寫せるもの十二圖を集めたり
狩野常信畫譜	同	同	一	一〇〇	四	定家卿十二月の歌意を常信得意の花鳥圖にて表はせり
光琳畫譜	同	同	二	二〇〇	六	本書は光琳得意の筆を撮りしもの所謂光琳の筆を學ばんとする人の好参考書なり
抱一畫譜	福井月齋	同	一	一〇〇	同	抱一翁が季節分にて十二ヶ月の圖を描けるものなり

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
光琳十二圖	橋本菱華	同	一	一〇〇	四	光琳の畫風を學ばんとする者の必見書にて光琳畫譜と併せて見る可きなり
寛齋聚美畫譜	森雄山	同	一	一〇〇	四	森寛齋翁の圖十二枚を集め木版に附したるものなり
中古名人畫譜	芸艸堂	彩色形刷本	一	一〇〇	四	應舉筆、寒山拾得、蕉村筆、秋景山水、景文筆、惠比須等中古に於ける八大家の筆になりたるものを收めたり
松年景年畫譜	同	同	一	一〇〇	四	松年、景年二大家の筆になる十二圖を木版彩色刷を以て收めたるものなり
狩野家畫譜	同	同	一	一〇〇	四	探幽、常信、守住等狩野大家の筆になれるを臨摹なし木版彩色刷に附せしものなり
祝賀畫譜	同	同	一	一〇〇	四	十二大家が祝賀に意のある圖を各自獨特の筆にて描かれしものなり
古代名人畫譜	同	彩色形刷本	一	一〇〇	四	古代名人の筆になりたる十二圖を臨摹木版彩色に附せしものなり
近代大家畫譜	芸艸堂	半紙本木版彩色刷	八	二〇〇	三六	近代大家畫伯の筆になる山水、人物、花鳥、鳥獸、虫魚、草木等百二十圖を悉く木版彩色刷に附せるものなり
大和錦	鈴木萬年	彩色本刷	五	三〇〇	一八	奇才を抱いて天折したる畫家萬年氏が選筆に於けるものなり
唐土訓蒙圖彙	橋本有税	木版紙刷本	七	四・五〇	二七	本書は唐土に於ける天文、地理、宮室、人物、人事、古器、樂器、舟車、農具、衣服儀制、草木禽獸、魚介等悉く網羅し解説を附せり

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内特
諸職畫譜	瀧澤清	彩色珍本	三	一・五〇	一八	前書と同じく諸職の参考になる圖を描きしもの普く美術工藝家の参考書にして携帶至便の書なり
潜龍堂畫譜	同	木版紙刷本	五	三・五〇	一八	本書收むる岡山川草木人物禽獸等千狀萬態筆に随つて描出す學畫の好範たり
名家書畫圖錄	瀧雨堂	大本紙刷本	四	三・五〇	一八	本書は渡邊省亭先生が稀代逸品の書畫を縮模せられし珍書なり
大津繪	楠瀬日年	彩色七十八葉入刷本	二	一七・〇〇	二七	著名なる「藤娘」「赤坂奴」「辨慶」等は勿論其他愛蔵家の秘庫にある珍中の珍圖を複製木版彩色刷にせしものなり
五畿内産物圖會	東野山人	同	一	四・五〇	一八	東野山人が集めし五畿内風物名産の圖數百種の内其優秀なるを撰み木版彩色刷に附せしものなり
おもちゃ十二支	川崎巨泉	彩色仕立刷本	一	五・〇〇	一八	おもちゃ繪に有名なる巨泉氏が廣く千支のおもちゃを蒐められし書なり
おもちゃ十二月	川崎巨泉	彩色仕立刷本	一	一〇・〇〇	三六	東の横綱が西澤畫伯なれば西は川崎畫伯と大供玩具界での定評本書川崎畫伯が十二月に筆せられし詳細なる解説を附せるものなり
名家畫譜	諸大家筆	全帖紙刷本	七	二五・〇〇	一〇	瑣筆極りなき本書目百二十三頁百二十六頁の名家畫譜を全部合本にせしものなり山水人物花鳥動物虫魚其殆んどを網羅す
釋尊御一代記圖繪	山田意叟書 葛飾北齋畫	大木版紙刷本	六	三・五〇	二七	釋尊一代記を六卷八十五項に互り記せるもの北齋の挿畫と相俟つて尤も完全なる一代記にして一讀其有難味に隨喜の涙を較る
日本開闢由來記	玉指編漁者	彩色紙刷本	四	二・五〇	二七	我國開闢以來の事蹟を極めて平易に記述し加ふるに挿圖は浮世繪の大家國芳の筆にして一讀興味津々たる一大歴史圖録たり

西澤笛畝畫伯編著

人形集成

人形集成の刊行——著者は現畫壇の權威、我國人形研究の第一人者、此著者にしてこそ始めて此著を企て得るのである。

本集成收むる所を大別するに衣裳人形、蟻峨人形、加茂川人形、御所人形其他優秀なる古代の人形等、東京帝國博物館蔵を始め東京及各地名家秘蔵の逸品を本集成完成の爲特に請ひて寫せしもの嘗て類書に見ざる側面背面の形に留意し全形を現し、又撮影には各地に優秀なる技師を派し木版彫刻原色及玻璃版製版共入念、印刷の精巧無比、用紙の精撰等近時出版の美術書に見ざる所なり、解説には著者多年の蘊蓄を傾倒執筆詳密を極む和英兩文を以つてせり。

本集成の刊行は研究家、製作家、蒐集家、鑑賞家、美術家の絶大なる參考資料のみに止らず一般家庭の向上又壁間の掛額として唯一のものたるを信ずるものである。發刊の日を待たれん事を。

- 内容及刊行略規
- 一、種類 古代人形約三百餘種
 - 一、寸法 竪一尺二寸五分 横九寸六分
 - 一、十輯一百葉完結
 - 一、每輯十葉收録
 - 一、每輯内容
 - ▲木版極彩色刷二葉
 - 用紙 鳥子紙大色紙判
 - 臺紙 別濤局紙使用
 - ▲精巧原色版七度刷三葉
 - 用紙 舶來アーテンポスト
 - ト 臺紙別濤局紙空押
 - ▲高級玻璃版印刷五葉用
 - 紙 舶來アーテンポスト
 - ▲一輯 定價 金五圓
 - 送料 金貳拾七錢

(な越申御入封錢貳券郵は方の望希御本見容内)

故名家圖録

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
光琳圖録	記二百年念忌	大形入本	一	二五〇〇	五四	畫聖光琳二百年記念品展覧會に出品の各名家幾多秘蔵の優秀品を収めたる一大圖録なり
宗達光琳屏畫集	尾俣屋宗達	大形入本	一	二〇〇〇	五四	本書は宗達、光琳二大家が、豪宕華麗の意匠めたる以て、一世を震撼したる大傑作を収めた
抱一上人畫集	博恩賜京部	大和綴本	一	八〇〇	五四	抱一の名畫は精巧に出陳の傑作六十二圖を収めし
柳里恭鳥類譜	柳澤淇園	紙鳥の刷子	一	一五〇〇	五四	この印刷は精巧に刷り及高級紙模様の用ひられ
十便十宜	大雅、蕪村	中本和装	一	一〇〇〇	四	兩者筆原本は最も世に名高きものにして手に
池大雅薦事餘光	大雅堂遺墨	大形入本	一	八五〇	三六	大雅堂百五十年忌に當り其遺墨逸品六十餘種
亦復一樂帖	田能村竹田	和装入本	一	七五〇	二七	及び寫せしもの大雅堂に當り其遺墨逸品六十餘種
浦上玉堂名畫纂	布施萬載藏	大形入本	一	三五〇	二七	浦上玉堂遺墨の内より逸品二十五點を撰り
玉堂琴士遺墨集	橋本關雪編	和装入本	一	一五〇〇	五〇	關雪氏の何れも秘蔵の遺墨五十九圖を附せり

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
寬齋畫譜	森寬齋	大形入本	一	四〇〇	二七	筆は傑作數百幅の内、特に秀拔絶なる傑作を
雅邦翁畫集	橋本雅邦	同	一	五〇〇	二七	雅邦は當代の巨擘にして又實に古今有数の各匠
岸竹堂畫譜	岸竹堂	大形入本	一	五〇〇	二七	岸竹堂翁の少壯時代より總筆に至る第一代の
默語日本畫集	淺井忠	大形入本	一	五〇〇	二七	採集せしものなるに足る大小傳譜を論ずすし
默語西洋畫集	淺井忠	大形入本	一	七五〇	三六	洋畫の巨匠、新圖案の鼓吹者たる氏の晩年自
木魚遺稿	淺井忠	大形入本	一	二五〇	二七	集生共の本領たる全集は愛に完成せり印刷鮮明
評傳 淺井忠	石井柏亭	大形入本	一	七〇〇	二七	遺墨日記并に諸家の感想及追懐談を以てせり
米僊遺墨集	薦事展覽會	大形入本	一	三五〇	一八	萬事展覧會に際し其集まりし諸家秘蔵の逸品
米僊遺墨帖	米人 武威氏藏	大形入本	一	四五〇	一八	の米人武威氏が米僊畫伯に就き習畫された當時
文翠畫集	柳原文翠	大形入本	一	四五〇	一八	柳原文翠翁逝く十有七年大和繪を作る者凋落
春草畫集	菱田春草	大形入本	一	五〇〇	一八	春草畫伯の遺墨數十點を収録せるもの其の圖

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
遺香畫集	谷口香崎	帙入美四倍	一	二〇〇〇	五四	本書收むる所百五十圖何れも遺墨展覽會に出 品せられたる諸家の秘蔵にして畫伯一代の 傑作なり主として歴史畫を收む
歴史風俗畫譜	谷口香崎	帙入美四倍	一	四〇〇〇	二七	巧なる畫家の泰斗たる先生の傑作二十五圖を精 歴史畫の泰斗たる先生の傑作二十五圖を精 細解説を附せり
廣業畫譜	三越美術部	同	一	四〇〇〇	二七	本畫集には有名なる「高山清秋」の繪あり其 他山水人物凡そ五十圖を收む何れも鮮明なる 廣業畫伯一代の傑作悉くを網羅す精巧なる印 刷に收むる紙表紙綴り三方金大和装鉄入
廣業偉觀	寺崎廣業	原色版	一	三三〇〇	一〇	前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
鐵齋先生遺墨集	富岡家編	大形紙入	三	三〇〇〇	一〇	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
鐵齋先生遺墨集續	富岡家編	大形紙入	一	一五〇〇	二七	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
紙芳墨痕	富岡家編	大形紙入	一	一三〇〇	二七	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
翰墨布施	大村西崖	和装紙入	一	三三八〇	一八	三越美術部に於て展覧したる畫伯の傑作 なる十餘幅を施せり
竹外遺墨集	姫島竹外	和装紙入	一	八〇〇	三六	南畫界の重鎮たりし姫島竹外翁の遺墨展覽會に當 りし作品の精華なり
觀山作品集	日本美術院	絹製帙入	一	三五〇〇	一〇	大觀の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり

故名家圖録

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
靈華追悼畫集	關如來編	原色版	一	三八〇	一八	吉川靈華畫伯の遺作八十餘幅を先づ巻頭に 伯追慕の士絶好の畫冊たり
日本近代南畫集	國民美術會編	和装紙入	一	八〇〇	二七	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
京美集	俱樂部美術部編	大形紙入	二	三五〇〇	一〇	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
後素協會遺墨展觀圖録	後素協會	上質紙刷	一	六五〇	三六	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
溫古畫集	諸名家秘藏	和装紙入	一	一三〇〇	五〇	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
友染齋圖録	三越吳服店	和装紙入	一	九五〇	二七	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
日本美術叢書	芸艸堂	玻璃版	一	二五〇	一八	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
日本美術叢書	芸艸堂	玻璃版	一	二五〇	一八	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
日本美術叢書	芸艸堂	玻璃版	一	二五〇	一八	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
日本美術叢書	芸艸堂	玻璃版	一	二五〇	一八	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり
日本美術叢書	芸艸堂	玻璃版	一	二五〇	一八	鐵齋の晩年の傑作を精選し其の精華なり 前篇三冊に附したる翁の傑作七十幅を精巧な 章百三十餘幅を收載する前篇を併せば實に本 集の精華なり

故名家圖録

未二
▲山水風景之卷▲人物之卷(二册)▲花禽之卷▲草花之卷
▲書之卷▲茶器名形之卷▲漆器蒔繪之卷▲陶器之卷

◆候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文註御◆

書名	著者	裝幀	冊數	定價	郵稅	內容
同 美術工藝 日本畫	文部省	四六倍判 和玻璃製	一	五・五〇	二七	昭和二年度 挿圖六六葉
同 西 洋 畫	同	同	一	一七・五〇	五四	昭和三年度 挿圖三〇九葉
同 彫 塑	同	同	一	一三・五〇	五四	昭和三年度 挿圖四五六點
同 美術工藝	同	同	一	八・〇〇	三六	昭和三年度 挿圖一二八葉
同 西 洋 畫	同	同	一	七・五〇	二七	昭和三年度 挿圖一四三點
同 彫 塑	同	同	一	一七・五〇	五四	昭和四年度 挿圖三五三葉
同 美術工藝	同	同	一	一〇・〇〇	五四	昭和四年度 挿圖三三〇點
同 西 洋 畫	同	同	一	八・五〇	三六	昭和四年度 挿圖一五四葉
同 彫 塑	同	同	一	七・五〇	二七	昭和四年度 挿圖一七六點
同 美術工藝	同	同	四	四四・五〇、五〇		昭和五年度

◆候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文註御◆

日本南畫院 第一回圖録	日本南畫院	四六倍判 玻璃版	一	二・五〇	一八	挿畫數三十葉大正十年度
日本南畫院 第二回圖録	同	同	一	三・五〇	一八	挿畫數五十葉大正十一年度
日本南畫院 第三回圖録	同	同上 玻璃版 上質用紙	一	六・〇〇	二七	挿畫數七十一葉大正十三年度
日本南畫院 第四回圖録	同	同	一	七・〇〇	二七	挿畫數百葉大正十四年度
日本南畫院 第五回圖録	同	同	一	六・〇〇	二七	挿畫數九十八葉大正十五年度
日本南畫院 第六回圖録	同	同	一	六・〇〇	二七	昭和二年度出品作品九十三點
日本南畫院 第七回圖録	同	同	一	五・五〇	二七	昭和三年度出品作品六十二點
日本南畫院 第八回圖録	同	同	一	六・五〇	二七	昭和四年度出品作品九十四點
日本南畫院 第九回圖録	同	同	一	七・〇〇	二七	昭和五年度出品作品

◇候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◇

書名	著者	装幀	冊数	正價	郵税	内容概要
早苗會第二十回作品集	山本春舉	四六倍判	一	四・〇〇	一八	挿畫數七十葉
同 第二十一回	同	同	一	四・五〇	一八	挿畫數七十三葉
同 第二十三回	同	同	一	三・五〇	一八	挿畫數四十葉
同 第二十五回	同	同	一	五・五〇	二七	挿畫數七十八葉
第三一回早苗會展覽會	同	菊倍判	一	七・〇〇	二七	(昭和五年度)川村曼舟、栗本一洋、小村大雲、勝田哲、玉舎春輝、小早川秋聲、林文塘、外本年度春季展の力作百餘點を收む。
第六回青甲社展覽會	青甲社	菊倍判	一	七・〇〇	二七	昭和四年度展覽會出品作七十七點登載
第七回青甲社展覽會	同	菊倍判	一	七・〇〇	二七	(昭和五年度)西山翠峰、筆帆、鴉、原色版及四、切版を始め、堂本印象、小川翠村、福田惠一、上村松篁、今尾景春、諸氏其他力作七十餘點
菊池塾第一回畫集	菊池塾	菊倍判	一	七・〇〇	二七	(昭和五年度)菊池契月畫伯筆、夢圖及其部分、陳されたる本年度の力作を纏めしものなり
第一回展覽會畫集	双水美術協會	同	一	二・五〇	一八	芳醇なる美術の美酒に陶酔せんとする眞の美術愛好者を會員として創設せられたるものなり
第五回展覽會畫集	同	菊倍判	一	三・五〇	一八	陳せしを記念の爲に、精巧なる玻璃版印刷に附せしものなり(後六、七、八回あり)

◇候上願讀一御定規賣小書圖頭巻は節の文注御◇

大正第一回作品集	大阪美術會	四六倍判	一	三・五〇	一八
大正第二回作品集	同	同	一	三・五〇	一八
大正第三回作品集	同	同	一	三・五〇	一八
大正第四回作品集	同	四六倍判	一	三・五〇	一八
大正第五回作品集	同	同	一	三・五〇	一八
大正第六回作品集	同	同	一	五・〇〇	一八
大正第七回作品集	同	同	一	七・五〇	二七
大正第八回作品集	同	同	一	七・五〇	二七
大正第九回作品集	同	同	一	八・五〇	二七
大正第十回作品集	同	同	一	七・五〇	二七
大正第十一回作品集	同	同	一	五・〇〇	一八

大正三年東京に於ける文部省の美術展覽會に對抗すべく立てる大阪美術展覽會は、審査員に菊池契月、北野恒富、水田竹圃三氏を挙げ、嚴選による審査の結果、年々作品の内容は、其何れも個性を發揮し、従来の記録を破り、今や近畿各全國美術家の注目する所は、悉く本會に集れり。毎回、大阪三越吳服店に於て展覽するを鮮明なる、玻璃版に附せしもの本作品集なり、(御注文の節は「大正」何回にて差支無之候)

◆候上願讀一御定規費小書圖頭巻に節の文注御◆

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概要
日本自第一回展覽會圖録	日本自由畫壇	四六倍判 玻璃版	一	三・〇〇	一八	大正九年度 挿畫數三十六葉
日本自第二回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	大正十年度 挿畫數二十七葉
日本自第三回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	大正十一年度 挿畫數四十五畫
日本自第四回展覽會圖録	同	同	一	三・五〇	一八	大正十三年度 挿畫數三十二葉
日本自第五回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	大正十四年度 挿畫數五十一葉
日本自第六回展覽會圖録	同	同	一	三・五〇	一八	大正十五年度 挿畫數四十八葉
日本自第七回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	昭和二年度作品 四十一點
日本自第八回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	昭和三年度作品 四十點
日本自第九回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	昭和四年度作品 大作十九點
日本自第十回展覽會圖録	同	同	一	三・〇〇	一八	昭和五年度

◆候上願讀一御定規費小書圖頭巻に節の文注御◆

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概要
小品畫集	同	同	一	三・五〇	一八	同人十二氏の、小品畫五十點を鮮明なる玻璃版を以て收めたり
試作展覽會畫集 第一回	同	同	一	三・五〇	一八	挿畫數三十九葉 東京の巻
試作展覽會畫集 第二回	同	同	一	四・〇〇	一八	挿畫數四十八葉 東京の巻
日本自第三回展覽會圖録	日本自由畫壇	四六倍判 玻璃版 上質用紙	一	三・五〇	一八	大阪三越吳服店の試作展覽會に於ける入選畫八點選外佳作十九點及同人力作圖二十二點を精巧なる印刷に附したるものなり
第二回出品目錄	洋畫展覽會	四六倍判	一	一・二〇	一八	同會第二回出品の重なる水彩油畫數十點を鮮明なる印刷に附せり
第一回展覽會畫集	白蟻社	四六倍判 和紙和裝 玻璃版	一	三・五〇	一八	北野恒富氏門下の集ひたる白蟻社第一回展覽會出品六十點の傑作を收載したる書なり
美術兩校卒業記念圖録	京都市繪專 美工校友會	四六倍判 玻璃版 上質用紙	一	三・五〇	一八	本書は京都市立繪專專門學校第十六回及美術工藝學校第三十三回の卒業生作品を全部撮影精巧なる玻璃版印刷に附せしもの也
美術卒業作品圖録	同	同	一	三・五〇	一八	昭和三年三月 卒業制作作品全部登載
美術卒業制作作品圖録	同	同	一	三・五〇	一八	昭和四年三月 卒業制作作品全部登載
美術卒業制作作品圖録	同	同	一	三・五〇	一八	昭和五年三月 卒業制作作品全部登載

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
サロンの美術品圖録	日佛交換美術展覽會	四六倍判	二	二〇〇〇	一〇	新古美術工藝品之部 二百二十四葉 日本畫西洋畫彫刻之部 二百五葉
第三回繪畫展覽會圖録	日本畫會	四六倍判 上質用紙	一	八〇〇	三六	大正十四年度に於ける革新第三回に入選の四十二點及監査員會員の力作等併せて百十二點を精巧なる玻璃版印刷に附せるものなり
浮世繪圖録及參考書						
木版繪	三越美術部	四六倍判 和紙和裝	一	四・五〇	二七	先年三越吳服店にて展覽せし内其優秀なる者又興味深き者凡九十點を取集め編纂せり
浮世繪集	同	同	一	八・五〇	二七	大正九年の展覽會陳列中には實に世界的珍品とすべきもの多々あり本集には其名品百十點を收めたり
古代風俗畫集	同	同	一	四・五〇	二七	好事家が珍中の珍として秘藏せる肉筆浮世繪を三越に於て展覽の際名品百餘點を採み攝影印行せり
大和繪畫集	大阪繪協會	玻璃倍判	一	五・〇〇	二七	本畫集は諸名家の秘藏に係る浮世繪肉筆畫六十一圖版畫二十圖を鮮明なる玻璃版に附せしものなり
やまとゑ	神戸大和繪協會	同和裝	一	八・五〇	二七	所載版畫は春信、春章、哥廣、榮之、寫樂者繪風俗山水等領る多し

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	内容概要
團扇繪展覽圖録	一立齋廣重	菊倍判 和紙和裝	一	八・五〇	二七	廣重版畫蒐集家として著名なる中村辰次郎氏の秘藏團扇繪百二十八點を輯録せり
廣重畫集若書の巻	中村辰次郎	玻璃倍判	一	二・二〇〇	二七	廣重版畫蒐集家として有名なる中村辰次郎氏より未だ世に知られぬ廣重の若書約二百點を撮影印刷に附したるものなり和英解説附
浮世繪版畫精粹	藤懸氏解説 松木氏編	四六倍判 和紙和裝	四	三〇〇〇	一〇	收む浮世繪版畫二百七圖悉く新界の優品佳作にして丹繪、漆繪、紅繪、錦繪の順に配列し、その權威藤懸氏が筆の傳記作品の解説を執筆し、女性には化粧の姿に於て最もその美しさを發現するに本畫集は春信筆の浮世繪の美人の原色版を始め、現代版畫迄に至る浮世繪の粹を蒐めしものなり
國芳版畫傑作集	彰美會編 井上和雄氏解説	同	一	九・〇〇	三六	浮世繪版畫集その刊行多しといへども一男齋國芳の畫集は本畫集に於て最もその權威ある
英山畫集	彰美會編 牛山氏解説	四六倍判 玻璃版	一	七・〇〇	二七	版畫蒐集家研究家鑑賞家秘藏の逸品を蒐む中筆詳細を極む
浮世繪志	浮世繪志會	半紙本 一日發行	一	七・〇	二	浮世繪研究唯一の資料なり毎號同人の執筆し、浮世繪版畫大家の論叢記事満載す表紙は木版印刷
浮世繪春信號	浮世繪志會	半紙本 和綴原色	一	七・〇	二	浮世繪研究唯一の誌たる浮世繪志特輯號にして、大曲村氏の春信研究に於て、浮世繪の一端を洩らせるものなり春信畫者垂蔭のもの
浮世繪廣重號	浮世繪志會	半紙本 和綴原色	一	七・〇	二	藤懸静也氏の廣重版畫蒐集家、井上和雄氏の北齋風村氏の廣重七三氏、川外廣重研究満載の
補浮世繪師人名辭書	桑原羊次郎	和紙三切判 携帶至便	一	一・五〇	六	浮世繪師の廣重、春信、國芳、英山、大曲、村氏、の著者、初學者の羅針盤として、研究家が詳
錦繪の彫と摺	石井研堂	半紙本 和紙和裝	一	三・〇〇	一八	版畫製作實際の全秘訣を知りたい人、錦繪の價を清く、吾がの趣味として、一冊の價は只さなる

浮世繪圖録及參考書

趣味の展覽會圖録

書名	著者	装幀	冊數	正價	郵税	内容概要
名俳句畫讚百選	瀧内曉園	和紙和裝 大本入帙	一	一一・〇〇	二七	本書は、元祿の俳聖芭蕉翁を始として天明の め口繪には、木版彩色刷を以てせり
俳畫百選	圖書館展覽	和紙和表 半紙本	一	二・五〇	一八	京都府立圖書館内で往年開催した俳畫會の出 品を第一集として刊行した例に依つて同じ 年の秋に開いた展覧會の出品中優秀な美本を なしての秋に開いた展覧會の本仕立の瀟洒たる美本を なしての秋に開いた展覧會の本仕立の瀟洒たる美本を
同 第二集	同	同	一	二・五〇	一八	故名家の面影を剪貼たりしむる佳作を各時代 に類別して總計九十餘葉を収むる俳趣味に遊ぶ 好事家の好伴なり
俳句に 關する 展覽會集	三越美術部	同	一	五・〇〇	二七	三越呉服店にて展覧せし諸名家秘藏の豊公遺 品數百點の内美術工藝家の資料となるものなり 鮮明なる玻璃版に附せしものなり
豊公 紀念 展覽會圖録	同	四六倍判 和紙和裝	一	七・五〇	二七	本書は表題の如く夏の江戸時代風俗を窺ふに は充分なるものなり古代衣裳錦繪團扇扇子煙管 等を精巧なる印刷に附せるものなり
納涼に 關する 江戸の風俗	松坂屋展覧 久保田金徳	菊倍判 玻璃和裝	一	七・五〇	二七	角力に關する、各名家秘藏の逸品凡百點を收 む鮮明なる玻璃版なり
角力に 關する 展覽會圖譜	白木屋	四六倍判	一	五・〇〇	一八	先年三越に開催せらるる、や集まれる點數三千 有り餘其出品中の名作逸品を撮影上梓せり圖に 依り詳細説明を附す
劇する に 展覽會圖録	三越流行會	四六倍判	一	六・五〇	二七	古來傳統的の舞踊及新舞踊五十番に舞臺面及 小道具を原色版及玻璃版に附し専門大家の筆 なる便覧電氣衣袋小道具の解説を附す
舞踊 裝	川尻清澤 久保田金徳 専門家十氏	大形帙入 原色版	一	二八・〇〇	一〇	

◆候上願讀一御定規實小書圖頭巻は節の文注御◆

親世會々長 伯爵 内田康哉閣下題字
文學博士 笹川臨風先生序文
松野奏風畫伯描寫

定規行刊及容體

宗家の舞影六十姿を精巧原色版、舞臺面、型所、小道具、作物及
解法をオフセット版に附し約百八十葉を二十葉に分ち毎月刊行
雅緻な原色版舞影三姿オフセット版一尺三寸横一尺原色版四切判用紙別選
來アール・デコ・オフセット版(原色版)別選局紙最優紙張、コッパン紙或は
畫學紙(オフセット版)別選局紙最優紙張、コッパン紙或は
金邊五拾錢送料毎冊七錢一定價四圓最優紙張、コッパン紙或は
芝罘會員に限り▲おむね好み紙質引前金六拾五圓、最優紙張
半切判或は表風畫伯能畫木版刷色紙何れか一葉最終に贈呈

宗家
觀世左近先生
舞影並編纂



能樂は我が國固有の一大綜合藝術であつて、幾百年の傳統を有し、許多の變遷を経て今日に傳はつた世界に誇り得べき大藝術の一である。舞臺此が刊行を企てたるや多年、昨春斯界の名家觀世宗家の御快諾を得てより、その撮影と製版印刷には特別に留意し多年の體驗よりひたすら研究と工夫を重ねこゝに精巧無比なる高級美術印刷に附し發行の運びに至りしものなり。收むる所悉く觀世宗家の舞影にして此を精巧なる原色版印刷に又舞臺面と型所、小道具作物等の描寫は現今能畫壇の權威として斯道に研鑽通曉せらるる、松野奏風畫伯の筆になるをオフセット印刷に附するものなれば、他の空想や臆測の描寫と穿つ所を異にし、宗家入神の舞影と俟つて完璧たるものなり。解説は曲柄、季節と所、梗概、人物と裝束、圖版型所の説明小道具作物の説明等詳細を極め一見觀能その儘の氣分を彷彿する事容易にして完結の嚆は我が能樂史上の一大文獻として權威威たるものである。今迄に能樂に就ての類書多しと云へ共未だ世界に向つて誇り得る我が一大藝術能樂の眞と美を傳ふる書絶無と云ふべく、實に本書能樂の刊行を以つて嚆矢とするものである。今や我國固有の能樂が古典藝術の粹粋として能樂美術その頂點にある時に當り舞臺が全く利益を度外視して眞の藝術趣味向上と言ふ點よりしての本書出版は、實に空谷の音に價するものにして全國幾十萬の能樂家愛護者が必需品たるのみならず繪畫に彫刻に染織に玩具に一般工藝品製作の應用に又壁間に掛けて鑑賞に裝飾に能樂氣分に浸り得べく其他苟も我邦の藝術を愛好する諸賢の座右に一本を備へらるべき好個の參考品たる事を極言する次第である。

狂言百番上	山口夢州	半紙本 和紙和裝	三五〇	一八	原色版三葉玻璃版五十葉
同下	同	同	三五〇	一八	同
時代納札	關西隨會	四六倍判 和紙和裝	五〇〇	一八	第一回隨會に參考として東都斯道諸氏の珍蔵 上梓する古來の逸品無慮千點乞ふて其一部を 見たり東月圓辨天堂再建に際し奉納の繪馬は 鶴見寺舊家の藏に於て古今大家の筆に於て 各々扇馬の凡そ數百點を其内美術工藝の資料なる 扇馬の二百點を玻璃版に附せしものなり 關保之助氏指導の下に陳列せしもの畫家圖案 からず 天明より明治初年に流行せしがラス繪の優秀 の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし
武器陳列寫眞帖	同	半紙本 和紙和裝	二五〇	一八	品切再版中
びいどろ繪	永見徳太郎	四六倍判 原色玻璃版 附説	三五〇	一八	白澤會同人の製作にかゝる人形玩具展覽會出 品の優作二十五點を撮影玻璃版に收めしもの なり 日本及朝鮮發見品、支那發見品、諸外國發見 品數百を玻璃版に附せしもの圖影 兩文を文學博士濱田耕作先生執筆
南蠻美術集	同	原色玻璃版 附説	二二〇〇	三六	品切再版中
昭和五人形作品集	白澤會	四六倍判 原色玻璃版 附説	二五〇	一八	品切再版中
増考古圖錄	京都帝國大學	菊判	五〇〇	二七	品切再版中

趣味の展覽圖録

森井諸國 芳枝玩具 見るまゝに	菊判和裝 定價圓五拾錢 送料拾八錢	著者が繪筆のかたはら趣味の研究として全國 及臺灣支那に渡り其の土地の風俗趣味等を察 知し得べき家庭的參考となるべき良書にして 又兒童教育の一として推賞すべき良資料なり
有馬敏四郎 五節句の話	四六判洋裝 插圖多 全一冊 近刊	我國古來よりの七草上巳端午七夕の插圖 に依り説明なし何人も一讀して我國五節句 の味を會得し得るが故に實趣味の研究書なり の意に會得し得るが故に實趣味の研究書なり
三宅長策 俳畫の鑑賞	菊判和裝 定價圓六拾錢 送料拾八錢	本書は俳家ならずして多年俳人揮灑の遺蹟を 研究したる結實にして著者の主張を本論に揭 げ俳畫の作者逸品を紹介し幾多名流を拉來り 高古超俗の放逸酒脱氣韻跌宕の山水人物に 本書は南畫の大家田崎草雲畫伯の遺作中名 家の珍蔵に於ける逸品約五十點を精巧なるコ ロタイ印刷に附したるもの中、ばかり見入る の健筆を揮はれ風韻溢るる中に引るもの恍 惚として知らず翠雲畫伯が恩師草雲先生の 總として知らず翠雲畫伯が恩師草雲先生の
日本南畫院 白石山房遺範	四六倍判 定價圓五拾錢 送料拾八錢	第一回隨會に參考として東都斯道諸氏の珍蔵 上梓する古來の逸品無慮千點乞ふて其一部を 見たり東月圓辨天堂再建に際し奉納の繪馬は 鶴見寺舊家の藏に於て古今大家の筆に於て 各々扇馬の凡そ數百點を其内美術工藝の資料なる 扇馬の二百點を玻璃版に附せしものなり 關保之助氏指導の下に陳列せしもの畫家圖案 からず 天明より明治初年に流行せしがラス繪の優秀 の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし
小室翠雲 田崎草雲先生の生涯	四六判洋裝 定價圓五拾錢 送料拾八錢	第一回隨會に參考として東都斯道諸氏の珍蔵 上梓する古來の逸品無慮千點乞ふて其一部を 見たり東月圓辨天堂再建に際し奉納の繪馬は 鶴見寺舊家の藏に於て古今大家の筆に於て 各々扇馬の凡そ數百點を其内美術工藝の資料なる 扇馬の二百點を玻璃版に附せしものなり 關保之助氏指導の下に陳列せしもの畫家圖案 からず 天明より明治初年に流行せしがラス繪の優秀 の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし の品を蒐め永見氏が詳細に解説を説きされし

同	同	同	同	同	同	同	同	同	綾	書
第十卷	第九卷	第八卷	第七卷	第六卷	第五卷	第四卷	第三卷	第二卷	第一卷	名
同	同	同	同	同	同	同	同	同	西陣織物館	著者
同	同	同	同	同	同	同	同	同	別大形表紙	装幀
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	冊数
六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	定価
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	郵税
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	内容
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	注意

古代有職模標並に参考書

別渡鳥の子紙各巻木版極彩色刷三十葉鮮明
 璃版二十葉内外古代織、染物刺繍類

〇室町時代の舞樂裝束、并名物裂及縞物
 本巻全部木版刷

〇支那印度地方織物染物刺繍類

〇夏の織染物刺繍類

〇能裝束類

〇女帯地小袖其他織染物刺繍類

〇能裝束類

〇古代支那印度染織物刺繍類

〇古代織物、打敷、裝束類

同	八重	彫金	日本古代	織紋	日本工業	波紋	波集	工藝	古代	印度
古鏡	かすみ	圖錄	模様	圖鑑	史對照	集	集	圖鑑	模やちく	美術大觀
同	同	鈴木紫陽	森雄山	藤谷紅麟堂	横井時冬	森雄山	森屋宗達	谷中口瑞香	鈴木萬年	川畑春翠
同	同	大玻璃版	木版紙本	彩色紙本	彩色紙本	木版紙本	彩色紙本	木版紙本	同	大形紙刷
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一八	二七	二七	一八	一八	二七	一八	一八	一〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

古代有職模標並に参考書

〇古鏡、蒔繪類

既許綾錦に洩れたる選品百五十種を精巧なる
 刀の縁頭三百六十五種を収む其圖樣の新規な
 考書として無二の資料たるものなり
 術工藝家の参考たるを疑はず
 り各種工藝家の古代模標及紋様を蒐集したれ
 る實典なり
 本畫は未だ世に現出せざる各寺舊家の繪畫影
 刻は更なり織物陶器に至るまで萬工の模範と
 なるべきを主眼として臨寫せるものなり
 日本工業史の參考用として正倉院の御物は勿
 論藤原氏及東山時代の室に縮寫せしものなり
 圖を悉く原形彩色のまゝに縮寫せしものなり
 本畫は材を波浪に取たる圖案書にして雲霞集
 備の書なり
 宗達の筆意匠新收むる波濤二十餘圖其應用
 へからざる書なり
 一冊は各種工藝に適切なる圖案を選み三氏各
 の要する筆を執りたれば各冊皆特長あり工藝家
 たり工藝圖鑑と共に美術工藝家の座右寶たり
 七彩色木版刷十七葉原色版刷四十葉玻璃版刷
 印度産陶器三十四種印度産彫刻三十六種

古制	古代	江戸	徴	吳	錦	同	能	日本	同	なる
徴	模	衣服	古	綾	袋		具	装飾	續	み
證	様	文様	帖	帖	帖	下	大	大鑑	篇	湯
谷口香嶠 今泉雄作 確井十三郎	谷口香嶠	風俗研究会	京都圖案家 諸名家合著	京都室博 帝室本願寺	下村玉廣	同	山口夢洲	河邊正夫	小田切春江	小田切春江
木版彩色 畫帖仕立	大形彩色 木版彩色	大形彩色 鳥の子刷	大形彩色 畫帖仕立	大形彩色 玻璃版入	大形彩色 畫帖仕立	同	別紙彩色 木版彩色	大形彩色 畫帖仕立	同	木版紙 刷本
五	二	一	一〇	二	一	二	二	五	三	五
二〇〇〇	一八〇〇	三五〇	五〇〇〇	二〇〇〇	八〇〇	三五〇〇	三五〇〇	七五〇〇	二五〇	四〇〇
四五	三六	一八	八〇	八〇	一八	七〇	七〇	一〇〇	一八	二七
本書は神佛 工器の美術 品を彩色刷 に附せしめ たり	谷口香嶠氏 の選品を美 術工器の好 資料として 彩色刷に附 せしめたり	各冊木版彩 色刷の綿密 なる解説を 各冊に附せ り	奇麗なる各 社寺の彩色 刷を精選し て彩色刷に 附せしめたり	京都室博 帝室本願寺 の彩色刷を 精選し彩色 刷に附せし めたり	能美なる茶 袋三十六種 を彩色刷に 附せしめたり	同	著者多年蒐 集の能樂に 關する優秀 なる大小道 具の彩色刷 を精選し彩 色刷に附せ しめたり	遠く飛鳥 の時代より 近代に至る 迄各種装 飾の彩色刷 を精選し彩 色刷に附せ しめたり	春江の意 志を彩色刷 に附せしめ たり	本書は美術 工器の彩色 刷を精選し て彩色刷に 附せしめたり

古代有職模様並びに参考書

古代	天	花	人	世界	さ	波	む	鳳	鼓	書
代	華	小	種	文	ら	難	かし	皇	洞	名
模	滿	袖	紋	様	さ	ふ	し	皇	集	著
様	墜	様	様	集	集	く	更	窠	集	者
集	集	集	集	集	集	さ	紗	集	集	者
瀧澤清	吉川雲華 題	今泉雄作 序文 五大圖案 家珍蔵	大野雲外	澤田誠一 郎	杉林古香	圓山應舉	山鹿清華	福岡玉俣	川畑契水	川畑契水
木版紙 刷本	大形彩色 畫帖仕立	大形彩色 畫帖仕立	同	彩色畫帖 仕立	彩色紙 刷本	彩色紙 刷本	大形彩色 畫帖仕立	大形彩色 畫帖仕立	大形彩色 畫帖仕立	大形彩色 畫帖仕立
三	一	一	二	一	二	二	三	二	一	一
一五〇	三〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇	四五〇	四〇〇	一〇〇〇	二五〇〇	一八〇〇	一三〇〇	一三〇〇
一八	一〇〇	一〇〇	二七	一八	一八	二七	三六	三六	二七	二七
古代の模様 を集め簡便 なる小冊子 となしたる	色勝る古裂 の模様を美 術工器の好 資料として 彩色刷に附 せしめたり	奈良朝時代の 古裂の模様 を精選し彩 色刷に附せ しめたり	工藝家の好 参考資料な り	上代日本の 彩色刷を以 て彩色刷に 附せしめたり	猿族、エジ プト、アッ シリア、パ ルシヤ、グ ル等の模 様を精選し て彩色刷に 附せしめたり	古香氏が熱 誠なる筆に より圓山家 工器の好 資料として 彩色刷に附 せしめたり	應舉畫伯が 繪筆の傍ら に古船載の 更紗を見る 品	色木版の模 様を精選し て彩色刷に 附せしめたり	著者積年蒐 集の古更紗 の模様を精 選し彩色刷 に附せしめ たり	昔巻狩に用 せし陣羽織 の模様を精 選し彩色刷 に附せしめ たり

古代有職模様並に参考書

書名	著者	装幀	冊數	定價	郵稅	内容概要
染織大鑑	辻松喬	彩色刷	四	一五〇〇	三六	染織大鑑、織、染、雜之部は古代の染織裂及繪巻物有職裂等數千種を著者數年間丹精を凝らして蒐集せしものより各種美術工藝の參考となるべきものを選抜し精巧なる木版彩色摺させし稀代の珍書にして美術工藝圖案家の座右寶として必備の書なり
同 染之部	同	同	三	一〇〇〇	二七	本書は藤原、鎌倉、室町、桃山、徳川時代に於ける織物染物より佛具建築等の意匠各種を悉く網羅し詳細なる解説を附せり
同 雜之部	同	同	三	一〇〇〇	二七	美術工藝家の座右寶たる集古十種は餘りに彫部を撮影精巧なる縮刷に附せるものなり
大日本美術圖譜	横小杉植冬	彩色刷	八	一五〇〇	四五	本書は天正慶長以後の大判小判より一分二分を施し傍ら其起原歴史を記載せり
刷集古十種	白川樂翁公	菊判洋裝	二	一五〇〇	八〇	雪山古谷氏が各種の蝶鳥を如何に古代模様化せしか其應用に擴きか速かに一本を手につら
金銀圖錄	近藤守重	彩色刷	七	五〇〇	二七	本書は古くは各代唐更紗に附したる携帶至便の書なり
模代蝶	古谷雪山	同	二	三五〇	一八	古くは各代唐更紗に附したる携帶至便の書なり
求古圖錄	瀧澤清	中本	一	一二〇	一八	古くは各代唐更紗に附したる携帶至便の書なり
古代文様類集	田中有美	石中版	十	五〇〇	二七	古くは各代唐更紗に附したる携帶至便の書なり
支那工藝資料	京都商會	大板装	一	一三〇〇	三六	支那工藝資料の二百餘點を収めたるものにして圖

古代有職模様並びに参考書

書名	著者	装幀	冊數	定價	郵稅	内容概要
觀 祭 帖	下村親山	玻璃倍判	一	七五〇	二七	觀山畫伯が多年蒐集愛蔵したる古代衣裳の精
中亞藝術蒐成	圖案家協會	大形紙入	一	三〇〇〇	一〇〇	逸品に關する美術工藝家が主として製したる其
千代紙	狩野秀峰	木版彩色刷	一	一〇〇〇	三六	古くは各代唐更紗に附したる携帶至便の書なり
阿蘭陀更紗	小川三樹	四六四倍判	一	一八〇〇	三六	長崎に附したる一般美術工藝家必備の書なり
小袖と振袖	野村正治郎	原色紙入	一	八〇〇〇	一〇〇	江戸時代の小袖と振袖の圖案が如何に斯界の資
綵霞帖	岸本景春	大形紙入	一	六〇〇〇	一〇〇	多量に蒐集したる内より圖案家の立場から實地
續誰が袖百種	野村正治郎	精製紙入	一	八〇〇〇	一〇〇	六十種を精選したる原色紙入の圖案が如何に斯
都ひるな形	野村正治郎	和紙刷	五	七五〇	二七	本書は色直し模様小立(子連)模様中立模様の
西河ひな形	田畑喜八氏藏	大板装	一	三〇〇〇	一八	三編七十一種よりなる色直し模様は西河結信
刈藻草	六面會	木版刷	一	一〇〇〇	一八	京都圖案家の元老の集ひたる六面會同人諸氏が
支那工藝	京都商會	玻璃倍判	一	一〇〇〇	二七	支那工藝資料の二百餘點を収めたるものにして圖

古代有職模様並びに参考書

陶器・漆器

陶器・漆器

書名	著者	装幀	冊数	定価	郵税	内容概要
陶器圖鑑	春名錦山	大本木版彩色刷	七	五〇〇	二七	内外古今陶器の形式模様一千餘圖に交ゆるに當代知名の陶器家が新案數十種を以てす新案家唯一の寶典なり
新古模様集	春名錦山	木大版刷	二	二〇〇	一八	錦山春名氏が集められし新古各種の模様を染めたるものにして圖案工藝家の缺くべからざる書なり
花瓶百種	間部時雄	木大版彩色立本	二	七〇〇	二七	十種を描き木版彩色刷に附せしものなり
朝鮮古陶磁器集	澤田誠一郎	大形彩色立本	一	四・五〇	一八	著者が朝鮮半島に旅行せし時最も印象に残りし新羅高麗時代の陶磁器三十餘種を寫し木版彩色刷を以てせり
かたち	澤田誠一郎	木大版刷	一	一・五〇	一八	花瓶、菓子鉢、香合、果物盛、紅茶器、錦壺等各種の形及圖様を描きたり木版刷にして五十餘種を收む
眞葛香山作品集	三越吳服店	大形彩色立本	一	七・五〇	二七	香山氏は實に我國製陶界の第一人者なり本書は其自作にかゝる香爐、香盒、花瓶、煎茶器及び食器に至る迄其殆どを網羅せり
古陶磁器集	彩壺會	同鉄入	一	一・三〇〇	二七	樂初代、源川、柿右衛門、乾山、木米等其他の作にかゝる門外不出の名品凡そ三百點を撮影鮮明なる玻璃版に附し此に上梓せり
古陶磁器集	商品陳列所	四六倍判	一	五・〇〇	一八	京都商品陳列所主催にて展覧せし専門家秘蔵の古陶磁器を玻璃版に附したるものなり
茶器名形篇	富谷精	木大版刷	二	三・〇〇	一八	茶器の名物逸品を寫し之に詳細な説を附したる書にして斯道に心を寄する人士の一讀を要すべきものなり

陶器・漆器

書名	著者	装幀	冊数	定価	郵税	内容概要
聲米古瓷譜	青木木米	玻璃彩色立本	一	六〇〇	一八	陶工界の巨人木米氏が稀代の珍品を得るがまゝに描寫したる書なり
鐘溪窯	河井寛次郎	大形彩色立本	一	三・五〇	一八	本書は鐘溪窯の第一輯にして其傑作による十點の内三點を精巧なる原色版に七點を鮮明なる玻璃版に附せり
陶器燒付畫秘傳	江藤時太郎	木大版刷	一	五〇	四	本書は實地研究と歴遊の結果を開放編述せられ加ふるに自筆の圖畫七十餘を挿入す
本朝陶器攷證	金森得水	木大版刷	一	五・五〇	二七	著者が陶器を作り出す始めより模様の書方述せしものなり
景德鎮陶錄	和漢對譯	同	一	三・五〇	二七	支那景德鎮は唐以來歴代の官窯場なり本書は支那名家の組織特質等を詳細に説明せるものなり
和漢陶說	三浦竹泉譯	同	一	三・五〇	二七	支那名家の組織特質等を詳細に説明せるものなり
陶藝の美	中村秋甫	木大版彩色立本	一	四〇〇	一八	陶器漆器の優秀なる圖案四十餘種を收めたり
工藝の美	古谷紅麟	木大版彩色立本	一	二・五〇〇	四五	著者が其妙想を練りて蒔繪、硯匣、同平卓香盒、巻煙草入、陶器花瓶、金瓶、花瓶等の秀抜なる圖案百餘種を集めたるものなり
新模様の葉	六角紫水	木大版彩色立本	一	四〇〇	一八	本書は著者が葉餘の小著に過ぎずと雖も高尚な優雅なる模様の葉として圖案家の良友たらん事を必せり
蘇山之陶器	諏訪蘇山	木大版彩色立本	一	七・五〇	二七	蘇山一週に展覧せし名家秘蔵の蘇山の遺作三百餘點其の中特を抜き撮影せしもの本書なり蘇山の藝術を彷彿たらしむるに足る

書名	著者	装幀	冊数	定価	郵税	内容概要
宮殿の裝飾	同	彩色刷本	一	一・五〇	一八	本書は目下渴望せらるゝ裝飾圖案にして神版を珍重するものなり
黙語圖案集	淺井忠	彩色刷本 及玻璃版	一	一〇〇〇	三六	黙語作品全集の第一巻にして一般美術工藝家を問はず新美術を説するの士よ何ぞ速に本書を手につせざる
ふきよせ	雄山、天年、岡秋芳	半紙本	二	二〇〇〇	一八	雄山、天年、雄山の諸君は夙に嶄新なる模様の案出を以て名あり本書は三君の合著に於て
模様圖式	岡秋芳	彩色刷本	一	四〇	二	初歩者が模様の圖式を極めるに本書を藉かば容易にして各學校の教科書になれり
染織圖案	津田青楓	彩色刷本	四	二・五〇	一八	青楓氏獨特の意匠圖案九十六圖を収めたる携帶至便の書なり
小美術圖譜	同	彩色刷本	一	五〇〇	二七	趣味ある圖案の鼓吹者を以て任するものは小美術會なり小美術は即ち其機關
華紋譜	同	彩色刷本	二	五〇〇	一八	本書は青楓津田先生の丹精に成れるものにして執れも新を競ひ美を争ふ其風韻高雅なるは
紋樣小品	同	彩色刷本	二	二・五〇	一八	是は數十年の星霜を積みて八方より蒐集せし紋樣圖案なり故に染織業に關係あるものは必要缺くべからざる好參考書なり
落柿	津田青楓、淺野古香	彩色刷本	二	四〇〇	一八	兩氏が落柿する音を聞きつゝ描きし圖案にして其應用殊更に汎し
工藝新圖	田中幽峰	彩色刷本	二	三〇〇	一八	本書は著者老練の才筆を揮はれたる圖案にて紋樣の形式紋樣等に至るまで收めたり

書名	著者	装幀	冊数	定価	郵税	内容概要
幽峰美術應用	同	彩色刷本	二	二・五〇	一八	實地の應用を旨としたる圖案にして亦圖案家工藝家の好參考たり
工藝の美	古谷紅鱗	彩色刷本	三	二・五〇〇	四五	本書は、蒔繪硯、同平卓、香盒、文箱、巻物草入、陶器花瓶金瓶花瓶等の圖案百有餘種を集めたるものなり
こくりん模様	同	彩色刷本	二	八〇〇	二七	
雲霞集	同	彩色刷本	二	二〇〇	一八	錦雲彩霞數十種著者が意を用ひて案出したるもの工藝家が好箇の良友なり
精磨し	同	彩色刷本	一	六〇〇	二七	染織物陶漆いづれか應用せられざるべき試に採て以て其眞價を判せられよ
志磨しま	同	彩色刷本	二	五〇〇	一八	著者が稿圖案の少なきを憂ひ新らしき稿圖案二百五十餘種を描き公にせるものなり
松づくし	同	彩色刷本	一	一・八〇	一八	如何に松竹梅花を圖案化せるか其應用は實に無限と稱して聆ざるもの蓋し本書なり各冊五
竹づくし	同	彩色刷本	一	一・八〇	一八	十圖を、木版彩色刷に附せしもの圖案家其他
梅づくし	同	彩色刷本	一	一・八〇	一八	意匠家の虎の巻として座右缺くべからざる書
伊建花づくし	同	彩色刷本	一	一・八〇	一八	
花筏	同	彩色刷本	一	四〇〇	一八	筏流しに豊麗なる草花を施せし各種應用圖案なり

圖案參考書

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容
角力に關する展覽會圖譜	白木屋吳服店	四六倍判 玻璃版	二	五・〇〇	一八	角力に關する各名家秘藏逸品凡百點を收む
豊公展覽會圖錄	三越吳服店	四六倍判 和紙和裝	一	七・五〇	二七	豊公道品數百點の内美術工藝家の資料となるものを收む
創立に關する展覽會圖錄	三越流行會	四六倍判	一	六・五〇	二七	先年三越に開催せらるゝや集まれる點數三千有餘其出品中の名作逸品を撮影上梓せり圖に依り詳細説明を附す
宗山圖案集	澤田宗山	大形鉄入 色刷三十	一	七・五〇	三六	染織に陶器に其他あらゆる圖案に應用し得る筆者の新らしき創作圖案を收めしものにして全部精巧なる彩色刷になれり
時代納札	關西陸會	四六倍判 和紙和裝	一	五・〇〇	一八	千社札を集む
内外織物集	高島屋吳服店	大形 原色版	一	六・五〇	二七	本店秘藏の内外織物を精巧なる原色版及玻璃版に附せるものなり
明治座綴帳圖案集	丸見屋	縦一尺五分 横一尺六寸 絹布裝幀	一	二・〇〇	八〇	本書は一般帳圖案的資料たるのみならず其綿密なる圖案は裝飾美術として染織に將又一般應用美術として可ならざるはなし
歌舞伎座綴帳圖案集	丸見屋	縦一尺五分 横一尺六寸 絹布裝幀	一	二・〇〇	八〇	本邦第一の劇場たる歌舞伎座の綴帳圖案入賞及佳作を集めしもの前書明治座綴帳圖案に比し優ることも劣らざる圖案を集む
フタバ會	大丸吳服店 フタバ會	菊倍判 木倍判 玻璃版	一	二・〇〇	二七	婦人服子供服の圖案に賞をあげて集めし圖案多數本書優秀の二百點を選び上梓せるものなり一冊二圓三圓とあり三圓のみ金拾參圓也

圖案參考書 (寫眞版)

◇御注各位へ願ひ◇

各種展覽會圖案作品集

各一冊
金五圓内外より
金拾圓内外迄

まづ御希望圖案集の種類と、

應用時季と價格の御紹介を

友仙圖案及び着尺、染片側帶、染廣帶、織物、衣裳、裾模様等其他意匠圖案家の個人展或は團體展又は百貨店を始め各商店の陳列會には各作家の個性を如實に發揮した實用應用共に參考とすべき優秀なる作品を見る。その展覽會及び陳列會は毎月數次開催枚舉に違あらず、自然弊堂發行の作品集もその數夥敷きに上り本書目に發表する事紙面の許す不能、圖案作品集の書目を省き御希望のものを御紹介願ひ御満足の上御需要に應ずる事としました。業者幸ひに諒せられ充分の御利用御活用せられん事を。

額模本其他

裾模様本其他

△は春物
□は夏物
○は秋冬物

○春霞	田畑清江	小全 色部百番	七・〇〇	二七
○臺麓圖案	松坂屋	八番 十二番	八・〇〇	二七
○右近	同	内色部 三十三番	一三・〇〇	三六
○にぎはひ	市田商店	内色部 三十三番	一八・〇〇	五〇
○曙光	白木屋	内色部 三十三番	一六・〇〇	三六
○新華	高鳥屋	内色部 三十三番	一六・〇〇	三六
○山色	田畑清江	内色部 三十三番	九・〇〇	二七
△新象徴模様	大丸	内色部 三十三番	一六・〇〇	三六
△夏もやう	白木屋	内色部 三十三番	一六・〇〇	三六
○千歳鷄	芸軒堂	内色部 三十三番	六・五〇	二七
△今様夏松	屋	内色部 三十三番	七・五〇	三六
○今様秋	同	内色部 三十三番	一三・〇〇	三六
△静柳	上田静文	外原色 百十番	八・五〇	三五
○笑かは	安藤商店	原色部 十二番	一八・〇〇	五三
○魁	京都圖案會	四番 色部百番	一三・〇〇	三六
○黎明	白木屋	十五番 色部百番	一六・〇〇	三六
○双美	二北川清吉	百六番 一十番	八・五〇	四五
○双美	三同	百八十七番	八・五〇	四五
○若松	大丸	内色部 三十三番	八・五〇	二七
○裾模様協會	裾模様協會	原色部 六十番	六・〇〇	二七
○初音	金澤染物組合	原色部 三十三番	一三・〇〇	二七
○新尚古模様	高鳥屋	四番 色部百番	一三・〇〇	三六
○新珠	松坂屋	三番 色部百番	八・五〇	三六
○錦裳	十一屋吳服店	原色部 百七十七番	七・五〇	三六
○樂殿	増田商店	原色部 百九十一番	二〇・〇〇	四五
△宇しほ	大丸	内色部 三十三番	一三・〇〇	三六

額模本其他

○御かけ衣	大丸	三枚部 色部百番	一八・〇〇	三六
△サンサシヨン	同	原色部 百九十九番	一三・〇〇	三六
○鴛鴦	同	三枚部 色部百番	一五・〇〇	四五
△虹影	松坂屋	原色部 百九十二番	一四・〇〇	三六
○若葉	田畑清江	原色部 百三十三番	六・〇〇	二七
○研華	大丸	原色部 百八十三番	一三・〇〇	三六
○やまど	大丸	五番 色部百番	一五・〇〇	四五
△月かけ	市田商店	七番 色部百番	一五・〇〇	四五
○染織逸品會	丸紅商店	原色部 百八十五番	一四・〇〇	三六
△新日本模様	松坂屋	原色部 百八十六番	一四・〇〇	三六
△杜若	大丸	六番 色部百番	一二・〇〇	三六
○瑞光	高鳥屋	原色部 百八十九番	一二・〇〇	三六
○四海波	野澤屋	十四番 色部百番	一二・〇〇	三六
○よろつ代	高鳥屋	七番 色部百番	一四・〇〇	四五
○ふきよせ	大丸	小全 色部百番	五・五〇	二七
○麗彩	京都吳服協會 組合競技會	原色部 百五十八番	九・〇〇	三六
○更生模様	大丸	原色部 百八十五番	一四・〇〇	三六
○新古典模様	高鳥屋	原色部 百二十四番	一三・〇〇	三六
○明麗	丸	二番 色部百番	一〇・〇〇	三六
○光華	松坂屋	二番 色部百番	一五・〇〇	四五
○近古模様	大丸	原色部 百八十番	一五・〇〇	四五
○鶴	松坂屋	原色部 百五十番	一一・〇〇	三六
△すゝ風	同	原色部 百八十番	一五・〇〇	四五
○華燭	同	原色部 百七十七番	一六・〇〇	四五
○昭和	松坂屋	六番 色部百番	一五・〇〇	三六
○御代衣	大丸	原色部 百七十五番	一五・〇〇	三六
○あまつ日	市田商店	原色部 百三十六番	一八・〇〇	四五
○こゝのへ	丸	原色部 百十六番	二〇・〇〇	四五

△こゝのへ二丸	紅	實用圖案百三十番 色別五番	一三・〇〇	三六	△デカメロン八丸紅十日會	實用圖案百三十番 色別五番	一五・〇〇	五四
○こゝのへ三同		實用圖案百三十九番 色別八番	一八・〇〇	四五	○〃	同	一六・〇〇	五四
○表慶集 松坂屋		實用圖案百三十三番 色別五十三番	二〇・〇〇	四五	○〃	同	一三・〇〇	四五
△水明帖 同		實用圖案百八十一番 色別七番	一五・〇〇	三六	○〃	同	一六・〇〇	五四
○したしみ 市田商店		實用圖案百八十八番 色別二十一番	二〇・〇〇	四五	△〃	同	二二・〇〇	四五
○佳華麗禽 松屋		實用圖案百六十二番 色別六番	一五・〇〇	三六	○裳	美一袋美會 同	一五・〇〇	五四
○秋の超自然 大丸		實用圖案百三十三番 色別六番	一五・〇〇	三六	□〃	同	二二・〇〇	五四
○典麗裳 松坂屋		實用圖案百三十三番 色別五十三番	二〇・〇〇	四五	△〃	同	一〇・〇〇	四五
○柳 選一柳 選會		實用圖案百三十三番 外二百十番	一三・〇〇	五四	□〃	同	一五・〇〇	三六
○千 種二京都悉皆組合		實用圖案百七十七番	一三・〇〇	三六	○〃	同	一五・〇〇	四五
○千 種三京都悉皆組合		實用圖案百八十六番	一二・〇〇	三六	□〃	同	一二・〇〇	四五
△近 代大丸		實用圖案百五十五番 色別六番	一五・〇〇	三六	○いつくしみ 市田商店	實用圖案百五十二番 内五十二番	一七・〇〇	四五
□デカメロン四丸紅十日會		實用圖案百三十三番 色別五番	一三・〇〇	三六	○曬衣聚 松坂屋	實用圖案百五十九番 内五十九番	二〇・〇〇	五四
□〃			一六・〇〇	五四				

欄模標本其他

おさらへ百種	伊勢丹	玻璃版	四六倍判	一	五・〇〇	二七	舞踊おさらへお好手拭圖案 百番
あさき	松坂屋	木版印刷	菊色刷	一	五・〇〇	二七	一般應用お誂仕入手拭圖案奉納手拭圖案 二百番
風流手拭合	同	玻璃版	四六倍判	一	五・〇〇	二七	維新前より明治年間於ける好者秘藏の新舊併優刺繍花柳界温泉旅館等江戸趣味風流手拭凡二百九十種を収めしもの本書なり
江戸じまん	共進堂	石版印刷	四六倍判	一	三・五〇	二七	印纏祥天、襟文字、紋、手拭、風呂敷、江戸文字、角刷文字のれん等江戸自慢の名に恥ぢないものを集む
伊達比	恒成如風	石版印刷	四六倍判	一	三・五〇	二七	印纏祥天、襟文字十二體、いろは引江戸文字數字等
有名京手拭集	大幸號	同	同	一	三・〇〇	二七	其名の如く東京各商店の代表的手拭二百三十二筋を寫せしものなり
蒐集手拭	京都圖案家協會編	木版印刷	菊色刷及判	一	七・五〇	二七	趣味家小西一四三氏蒐集の時代手拭十四柄を木版に其優秀手拭影繪絞り半面一文字魚が限取天文迷信名所花見二二柄を收む

手拭・印纏祥天・風呂敷

衣服模標並參考書

書名	著者	装幀	冊數	定價	郵稅	內容概要
紋帳・色本						
紋づくし	小谷平七	大横裂表紙綴本	一	三五〇	二七	黒地に紋白上り上等日本紙印刷願鮮明
紋かどみ	市田彌一郎	同	一	二五〇	一八	同(新界業者の座右寶)
諸家紋鑑	宮田留吉	横本	一	一五〇	一八	
新紋帳大全	淺井廣信	中本	一	一二〇	一八	終に紋の割附及伊達紋様を附す印刷願る鮮明
以呂波引紋帳	竹内庄之助	横本	一	五〇	六	
配彩自在	研精會編纂	切抜新案百番箱入	一	二五〇	一八	收むる所の新流行色一百種は其使用者の工夫に由つて幾十種の配彩をも同時に得る時代要求の一大寶典なり
あやめ	十合吳服店	同	一	三〇〇	一八	昭和の勢頭に生れたる新しい珍色揃ひこれこそ染色家、織物業者の片時も手放せな
紋章學	沼田頼輔	菊倍一三四三頁挿畫多數	一	一五〇〇	五四	全巻を總論各論に大別し紋章の定義、名稱、歴史、形、種類、分布、姓氏との關係を説いて微に互り綱を穿ちし良書なり

紋帳、色本

紋帳・色本

書名	著者	装幀	冊數	定價	郵稅	內容概要
茶・花・盆石・作法						
正風松の翠	巖松齋	半紙版刷本	八	二五〇	一八	遠州流生花の一々圖に依り示したる指南書なり
青山活花早教諭	壽松園有雅	中木版刷本	二	一〇〇	一八	活花の大意より床花懸物花器取合の機密を識し其他活花要用の事を委しくしす
生花早學	諸流秘傳	同	十	五〇〇	三六	生花全體の圖解を初めとし四季草木の傳、生花に用ふる言葉、秘傳生方心得十ヶ條等一々圖により諸流の秘傳を公開せる書なり
小笠原諸禮大全	法橋玉山畫 篠田正作	半紙版刷本	一	五〇	四	それ徳行は禮に始まる禮の用は和を貴しき爲す國民率りて和を知りて和し禮を以て之を節せよと本書序の一つなり
女子容儀詳説	田中小三郎 田中幾之助	同	二	七〇	六	鹿爪らしい本書を今のモダン嬢さかにおいて立つて行く人には必ず一讀すべき書である
茶道寶鑑	宗理宗匠	木版彩色刷本 高本仕立 折本仕立 高本仕立 折本仕立	八	一三〇〇	四五	附録として黒川眞道先生「日本喫茶史料」あり
煎茶略説	兼葭堂版	大本木版	一	六〇	〇六	樂水居主人が煎茶の心得を略説せるものなり
煎茶早指南	嵐翠子	同	一	六〇	〇六	圖畫を以て一々説明したる煎茶初心者が必讀すべき書なり
青灣茶會圖錄	畫神堂	白紙刷本 中本映入	三	二五〇	一八	青灣茶寮主人直入席の茶會を圖により主席副席凡て十六席を詳細に記したる携帯至便の書なり

茶・花・盆石・作法

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
正風花矩	柴田宗碩	木半紙刷本	三	一〇〇	一八	古雅の流名を題して會席を設ける事多しといへ共何れも挿花と流名と相違甚し著者こゝに遠州流正風花矩を著す所以なり
茶器名形編	富谷 贇	彩色紙刷本	二	三〇〇	一八	頭巻終りに樂家系譜を以てし各説明を加へ巻記せり
茶式湖月抄	表裏共	挿木中畫版入刷本	一〇	四〇〇	二七	茶式に關する一切の事を網羅し茶の起原、教授、與茶法、茶器、茶室、釜仕掛、掛物、書院飾り等に就き詳述せるものなり
盆石畫譜	其日庵光一	木大版形刷本	一	五〇〇	二七	盆石の仕方を一々圖により示し東海道五十三次たる盆石圖を著し夫に對する聯々の和歌を配したる書なり
料理早見献立集	東條亭主人	挿木中圖版入刷本	一	五〇	四	素人にてても即座に日本料理及献立の出來得る様四季により類別詳細に記述せしものなり
書法・庭造・和歌						
寂蓮法師眞蹟	御歌所寄人 大口鯛二序	桐箱八華卷集	一	五〇〇	三六	未だ世に出でざりしもの乃ち爰に原寸の玻璃版に附して愛玩者に提供せん
行成卿六歌仙	冷泉爲恭	大彩刷本	一	一五〇	一八	行成卿眞蹟の色紙を爲恭が意を用ひて模寫し添ふるに歌意の繪を以てしたり好事家垂涎の珍書なり
賞春芳帖	大雅堂	正面打畫帖	一	再版中		

茶・花・盆石・作法

書名	著者	装幀	冊数	定價	郵税	内容概要
引十體千字文	淺井廣信	銅中版刷本	一	四〇	二	和紙和製携帶至便一般業者座右の書としての寶典たり
圖案文字大觀	武田五一校 矢島週一著	四葉八〇頁判	一	四・五〇	二七	一般廣告に裝飾等に必要なる常用漢字片假名八千餘字をアラビヤアルハベットの文字等約二萬上は千古の名宛より下は近代の經營に係るものまで五十餘圖を選み繪は前人の未だ曾て爲さざる名物石燈籠手洗鉢石紅石井筒の類に至るまで殆ど百餘圖を洗い置め之が位置時代作者若くは傳來を附し詳細説明を加へ且つ英譯を施し汎く海外に紹介せん
同燈籠及名石類	同	大彩刷本	一	二二〇〇	四五	秘傳を説明せり
築山庭造法	中島春郊	銅中版刷本	三	一五〇	一八	秘傳を説明せり
松花堂畫帖	松花堂	大形畫帖 仕立紙色入	二	二五〇〇	四五	書家として一派をなした松花堂には其畫自ら畫は松花堂の筆になりたる七十餘圖を收む
聯珠百人一首	岡田爲恭	大彩刷本	一	四五〇	二七	畫は爲恭書は喜村行納にして内容は既に世に定評あり江湖の士須く一本を手に入れん事を小倉百人一首の作者傳記并に歌意を詳細に圖解したるものなり
百人一首圖繪	田山敬儀	木大版刷本	三	四五〇	一八	百人一首の外頭書には幼童訓を始め源氏香の圖小笠原流折形其他十五項に涉り詳細記せり
鶴壽百人一首	姫 鐘	同	一	一五〇	一八	近松某林子二百年忌の記念出版にして春の遊びとして高尙の畫に忠兵衛を合すが如し仕方は極簡單梅川の畫に忠兵衛を合すが如し仕方は一度繪かば天挺の大人豪たる先生の風手如く得ては眞に國民必携の一大家典である
春遊夫婦合	原山源治君本 秘小箱入	木大版刷本	一	一〇〇	一八	近松某林子二百年忌の記念出版にして春の遊びとして高尙の畫に忠兵衛を合すが如し仕方は極簡單梅川の畫に忠兵衛を合すが如し仕方は一度繪かば天挺の大人豪たる先生の風手如く得ては眞に國民必携の一大家典である
南洲先生遺墨集	青山會 纂館	和裝紙入版判	一	一五〇〇	一〇	南洲先生遺墨集

書法・庭造・和歌

Table with columns: 書名, 著者, 裝幀, 冊数, 正價, 郵税, 内容概要. Includes titles like '懷中書畫便覽', '南祖王摩詰', '朝慶州の美術', '評畫傳集 井忠', '浮世繪師人名辭書', '花と藝術', '樹木と藝術', '草と藝術', '推古より天平へ', '天平より藤原へ'.

Table with columns: 書名, 著者, 裝幀, 冊数, 正價, 郵税, 内容概要. Includes titles like '雜', '篆刻のしをり', '落款と箱書の栞', '近世雅人傳', '登人華話', '芥子園畫傳', '日本畫速成法講義', '日本畫自在', '錦繪の影と摺', '趣味ノゴブラン織', '近代友禪史'.

書畫鑑定書・畫論・傳記・一般美術書

東洋藝術叢書

（菊判全一冊）漸次刊行

東洋藝術叢書

著者	番號	書名	口繪及 挿畫數	定價 送料共
中井宗太郎	1	▲哥 磨 の 藝 術	六圖	三〇
源 豐 宗	2	▲法 隆 寺 の 壁 畫	一一圖	三〇
竹 内 逸	3	▲東 洋 藝 術 の 整 理	四圖	三〇
中井宗太郎	4	▲廣 重 の 藝 術	九圖	三〇
吉川 觀方	5	▲大 津 繪 考	八圖	三〇
千熊章祿	6	▲藤原時代の建築裝飾	一二圖	三〇
谷川 徹三	7	▲若 沖	九圖	三〇
千熊章祿	8	▲東洋藝術に現はれたる龍	一〇圖	三〇
樋口 功	9	▲板 本 の 挿 畫	四圖	三〇
吉川 觀方	10	▲雛 人 形 の 研 究	一八圖	三〇
源 豐 宗	11	▲中 尊 寺	一七圖	三〇
中井宗太郎	12	▲東 西 美 術 史 年 表	一三圖	九〇
幸 埜 棊 嶺	13	▲繪 具 使 用 法	六圖	三〇

定期刊行

定期刊行

書名	著者	裝幀	冊數	正價	郵稅	內容概意
美 同 華	美術工藝學校 繪畫專門學校	前一月分 四月六倍行判	一	二五	五厘	雜誌美は實に京都市立繪畫專門學校の機關にして毎號大家の論を載せり。其の論は古名畫の逸品を鮮明なる筆で描き、其の背景を詳しく説明する。また、西洋美術の歴史を簡明に述べ、其の特色を論じてゐる。此の雜誌は、美術界の発展に資するものとして、大いに期待される。
日 本 國 寶 全 集	文部省藏版	木版彩色 四月六倍行判	一	五〇〇	一八	我が國の古名畫、彫刻、工芸等、其の精華を精選し、之を彩色で複製して、大衆に紹介する。此の全集は、我が國の美術史を知るに最も重要な資料である。其の複製は、極めて精巧で、原物の美しさを十分に再現してゐる。
浮 世 繪 志	浮世繪志會	半紙本 毎月一回發行	一	七〇	〇二	浮世繪の研究は、我が國の美術史を知るに重要な鍵である。此の誌は、浮世繪の歴史、その特色、そしてその発展の過程を詳しく論じてゐる。また、浮世繪の技法や、その背景にある社会情勢についても詳しく述べられてゐる。
風 俗 研 究	風俗研究会	半紙本 毎月一回發行	一	六〇	二	風俗の研究は、社会の発展と密接な関係にある。此の誌は、日本の風俗の歴史、その特色、そしてその変化の過程を詳しく論じてゐる。また、風俗の背景にある社会情勢についても詳しく述べられてゐる。
染 織 流 行	菱山相互會	四六倍行判 毎月一回發行	一	五〇〇	一八	染織の流行は、社会の発展と密接な関係にある。此の誌は、日本の染織の歴史、その特色、そしてその変化の過程を詳しく論じてゐる。また、染織の背景にある社会情勢についても詳しく述べられてゐる。
三 越 吳 服 店	三越吳服店	四六倍行判 毎月一回發行	一	二〇	〇四	三越吳服店の三色版、オフレット印刷等、鮮明なる印刷を以てして、大衆の注目を集めてゐる。此の誌は、その印刷技術の発展と、その背景にある社会情勢についても詳しく論じてゐる。

西 洋 藝 術 叢 書

行 刊 次 漸 (冊 一 全 判 菊)

著 者	番 號	書 名	口繪及挿畫數	定 料 共 價
千熊 宇平	1	▲ 我特式の建築と裝飾	二二圖	・三〇
國 頼三	2	▲ 繪畫に於ける點、線、面	二七圖	・六〇
南江 次郎	3	▲ 新舞台藝術としての人形芝居	二八圖	・六〇
壽岳 文章	4	▲ フレイクの畫論	八圖	・三〇
外山 卯三郎	5	▲ 純粹素描描論考	九圖	・三〇
黒田 重太郎	6	▲ 若き佛蘭西繪畫の現状に關する私記	八圖	・三〇
中井 正一	7	▲ 繪畫の不安	八圖	・三〇
國 頼三	8	▲ ホドラーに於ける寫實主義と理想主義	八圖	・三〇
川路 柳虹	9	▲ 滯歐雜記	八圖	・三〇
黒田 重太郎	10	▲ レ・ザルチスト・アンコンニユー	九圖	・三〇

西洋藝術叢書

東 洋 藝 術 叢 書

行 刊 次 漸 (冊 一 全 判 菊)

著 者	番 號	書 名	口繪及挿畫數	定 料 共 價
樋口 功	14	▲ 寒山拾得	九圖	・三〇
金剛 巖	15	▲ 能面概観	二二圖	・六〇
中井 宗太郎	16	▲ 藤原時代の佛畫	八圖	・三〇
伊勢 專一郎	17	▲ 文人畫概観	一二圖	・三〇
明石 染人	18	▲ 民藝としての繪馬の考察	二二圖	・六〇
中井 宗太郎	19	▲ 藝術家の社會生活と藝術	三圖	・三〇
土田 杏村	20	▲ 高雄觀心寺式彫刻と東密の法流	九圖	・三〇
中井 宗太郎	21	▲ 社會生活と藝術	四圖	・三〇
樋口 五郎功	22	▲ 題畫の詩と歌	三圖	・三〇
榊原 紫峰	23	▲ 日本畫の傳統と言ふこと	五圖	・三〇

東洋藝術叢書

◆美優尚高◆

美術畫譜

網羅せる流派には狩野派あり
 土佐派あり其他光琳派圓山派
 四條派等何れも其の筆趣には
 神髓風韻骨子あり東洋美術の
 粹本書を措いて他に其の比を見ず

木版奉書極彩色刷袋入
 屏風襖張交四季進物用
 ◆豎九寸
 ◆横七寸

十二枚一袋
 正價各金壹圓
 郵稅各四錢

古畫の尊ぶ可きは神髓韻風を損せず古色掬す可く骨子のあるを賞す弊舖特に茲に着眼し率先優美にして高尚なる左記數十種之美術畫を出版す其畫は殆ど肉筆の如く神髓あり風韻あり骨子あり爲に紙上餘韻溢れ進る是を以て大に好評を博し外人亦我東洋美術の超然萬邦に冠たるに驚く弊舖は尙之を以て足れりませす更に優美なる古畫逸品を選抄し大いに新意匠新考案を凝し此に此畫譜を出版す故に其畫は工業意匠の應用となり其他斯道に志ざす人に適當なる毛筆畫帖となり且極彩色を施したれば繪具配彩の參考となる殊に屏風襖等の張交に用ひて體裁善く或は扁額に挿みて日々取替へ賞翫せらるゝ可く神髓長へに古色深く室内裝飾には雅致高潔なり就中年末年始其他四季の進物には眞の好適品にして其價又廉なり日本固有の美術の發揮は茲に至つて餘蘊なし云ふ可し

美術畫譜

書名	十二枚一袋	正價各金壹圓	郵稅各四錢
景年花鳥畫鑑	紅梅に錦鷄鳥 櫻花に金翅 金盞草に鷓鴣 薔薇にふなか	青梅に翠鷓 木槿に紅雀 燈籠兒に白頰 芙蓉に磯鴨	鷓兒腸に鷓 蘆に雁 叢中に雀 雪中に野鷺
梅嶺花鳥畫譜	元日草に鶯 迎春花に瑞紅鳥 蕙花に雀 青楓に蝶吻	金銀蓮に魚狗 合歡に燕 牽牛花に白頰 紅蓮に田鷄	我母香に鷓 地錦に鷓 荷芽に捕眼兒 寒菊に鷓鴣
景文花鳥畫譜	若松に鳩 白梅に鶯 櫻に鷓 栗に燕	棟に啄木 牡丹に金絲雀 麥に鶯雀 金盞草に鷓	敗醬草に鷓 柿に百舌鳥 紅葉に鷓 梅に鷓鴣
景文花鳥畫譜後帙	鷓に鷹 鷓鴣に椿 知更雀に糸櫻 鶯に紫藤	方目に花菖蒲 鷓に朝顔 眉畫鳥に黃秋葵 白頰に葛	鷓に鷹 錦帶鳥にハトヤバヲ 鴉々鷓鴣に山茶花
景文花鳥畫譜續帙	翠雀露松之圖 鴨白英之圖 雉子山櫻之圖 月夜鴉山櫻之圖	魚狗金絲雀之圖 杜鵑卵花之圖 鶉河骨之圖 白鷺水葵之圖	深山畫私海棠花之圖 雀紅萩之圖 鷓秋草之圖 家鴨松葉金中之圖

◆ 近世名家花鳥畫譜	蓮花に告天子... 幸野梅嶺 彼岸櫻に十姉妹... 藤花芳文 山櫻に染錦... 中川蘆月 あかひげ... 今尾景年	竹に鶴... 三宅吳曉 野菊に雀... 岸竹堂 萩に夏雀... 森寛齋 紅葉に繪眼兒... 鈴木松年	蘆に雁... 竹内栖鳳 茶梅に鴨... 鈴木瑞彦 寒菊に鷓鴣... 森川曾文 梅に小陵... 谷口香嶺
◆ 松溪花鳥畫譜	曙雙鶴之圖 雨檜双鳩之圖 山櫻鷓鴣之圖 牡丹黃鸝之圖	萬蒲沈香鳥之圖 廣間遊鷺之圖 美女柳鷓鴣之圖 秋海棠雀之圖	枯蘆翠雀之圖 月夜双雁之圖 山菊群鷓之圖 露痕群鷓之圖
◆ 狩野常信花鳥畫譜	日の出飛鶴之圖 老松に山鶴之圖 春鷓雉之圖 牡丹に山鳥撫雞之圖	扇蘆銀葉に秋鷓之圖 夏山飛燕之圖 柏に鷓鴣之圖 魚狗に香重之圖	秋山歸雁之圖 蘆に鷺之圖 露枝に寒吉了之圖 白尾孔雀之圖
◆ 狩野常信花鳥畫譜後編	櫻に鷹之圖 石櫛に鷓之圖 蘭に知更鳥之圖 横木山慈姑に鷺之圖	萬蒲に鷺鷥之圖 萍蓬草方目鳥之圖 秋海棠に鷓鴣之圖 小蓮華にほしこい之圖	だんさく花に鷓之圖 萩に鷓之圖 鷓鴣花に紅雀之圖 雁群に千鳥之圖
◆ 狩野常信花鳥畫譜續編	鷓鴣に鷺之圖 一八に鳩之圖 黃梅に鴉々鳩之圖 錦花にこの鳥之圖	旋花にかりう鳥之圖 かさ車草に河原鷓之圖 芙蓉に黃鸝之圖 澤瀉にまがも之圖	鶺鴒に白鷺之圖 緒に雀之圖 あらせいに鷺之圖 菊花に雉子之圖
◆ 諸名家花鳥畫譜	岸駒筆... 松に鶴 南丘筆... 白鷺 景文筆... 廣黃葉に小陵 應賢筆... 紫藤花に紫鷓鴣	應受筆... 月季花に瑞香 廣雪筆... 朝顔に雀 光起筆... 萩に鷓 源塔筆... 露草に鷓	容齋筆... 紅葉に鶴 應舉筆... 稻に鷓 來章筆... 蘆に鷺 清暉筆... 露中海鷺

◆ 近世名家花鳥畫譜	浪に千鳥之圖 萬蒲之圖 柳に白鷺之圖 流水に櫻之圖	笹に鶯之圖 藤の花に雀之圖 月にすき之圖 流水に河狗之圖	蘆に雁之圖 雨中期顔之圖 秋草之圖 月夜に鷓之圖
◆ 松溪都眞景畫譜	皇居之景 北野管廟之景 嵐山之景 通天橋之景	清水之景 西大谷之景 大文字山之景 知恩院之景	高雄山之景 稻荷山之景 金關寺之景 修學院御庭之景
◆ 都名所十二景	嵐山春景... 森寛齋 梅之宮春景... 鈴木瑞彦 仙洞御庭春景... 三宅吳曉 金關寺夏景... 菊池芳文	保津川夏景... 岸竹堂 大谷眼鏡橋夏景... 谷口香嶺 銀閣寺秋月景... 森川曾文 大文字山送火景... 鈴木松年	廣澤池水月景... 中川蘆月 高雄山秋景... 今尾景年 野々宮寒林景... 幸桂梅嶺 清水寺雪景... 竹内栖鳳
◆ 平安名所畫譜	宇治橋... 應舉筆 鳳凰堂... 景文筆 淀城水車... 紫駒筆 清水瀧... 岸駒筆	詩仙堂... 吳春筆 東山の雨中... 豐彦筆 皇居... 松年筆 北野管廟... 梅嶺筆	宇治米洗... 芳文筆 叡山より琵琶湖眺望... 曾文筆 祇園絲帶櫻... 松溪筆 八瀬の里... 玉泉筆
◆ 諸大家十二支畫譜	子 直賢筆... 兩鼠之圖 丑 行光筆... 大牛之圖 寅 岸駒筆... 猛虎之圖 卯 應舉筆... 野兔之圖	辰 文見筆... 登龍之圖 巳 探幽筆... 辨天之圖 午 狙仙筆... 駿馬之圖 未 廣雪筆... 老羊之圖	申 狙仙筆... 猿猴之圖 酉 散山筆... 双鷄之圖 戌 廣雪筆... 狗兒之圖 亥 狙仙筆... 嘯猪之圖
◆ うろのめくみ	紅葉の萌芽 ふき 麥 土筆草	れんげう 菜種 苧の花 桃	すばう れんげ すみれ 狙に車輪梅

◇候上願實一御定規實小書圖頭卷は節の文注御◇

◇探幽西湖十二勝	山開看雲圖 柳海歸棹圖 江樓遠眺圖 月下歸蹄圖	琳宮看梅圖 山寺避暑圖 漁村夕照圖 田家驟雨圖	江村農事圖 江村捕魚圖 溪橋看瀑圖 雪中訪友圖
◇柔絢山水畫譜	蓬萊山 梅家小屋 春水渡牛 綠蔭清水	夕照浮舟 江干晴色 江上聞鷓 秋江餞客	夕陽山閣 秋江晚眺 雨中田舍 雪後山居
◇吳春山水畫譜 (大判六枚入)	山家梅島之圖 春日汲水之圖 夏日急雨之圖	竹林詩屋之圖 柳塘遊鷺之圖 溪間避暑之圖 沼邊孤村之圖	月下流舟之圖 谿間秋色之圖 積雪孤鹿之圖
◇吳春山水畫譜後篇	蓬萊山之圖 春日耕作之圖 春山滿月圖 田舍夕陽之圖	和州吉野山櫻之景 江州唐崎松之景 相模江之鳥之景 日光裏見瀧之景	秋風曉來之圖 雨中山路之圖 風襲懸樹之圖 山村晴雪之圖
◇松年山水畫譜	仙鳥旭日圖 梅花流水圖 桃溪垂釣圖 溪窓聽鶉圖	柳蔭舉網圖 山人觀瀑圖 蓮池泛舟圖 山月鹿鳴圖	秋溪歸棹圖 霜林采樵圖 竹溪歸農圖 松窓雪齋圖

本畫譜は清國第一の景勝地西湖の十二勝を狩野探幽先生が健筆を以て描寫せられし密畫にして權關山水畫の逸品なり

◇候上願實一御定規實小書圖頭卷は節の文注御◇

◇松溪日本眞景畫譜	薩埵峠より富岳を望む景 丹後天橋立之景 大和月々瀨梅林之景 東京隅田川櫻花之景	和州吉野山櫻之景 江州唐崎松之景 相模江之鳥之景 日光裏見瀧之景	奥州松島觀月之景 關州殿島之景 攝州住の江浦之景 京都金閣寺之景
◇浪華名所畫譜	天滿天神社之圖 道頓堀芝居之圖 新町太夫道中之圖 櫻祠春遊之圖	大川納涼之圖 御堂穴門之圖 夏祭蒲團太鼓之圖 難波橋月夜之圖	水津川夜景之圖 松島松ヶ鼻之圖 愛染堂之圖 御堂雪中之圖
◇土佐名家畫譜	土佐光起筆 宮中美人團扇圖 宮中御物語圖 宮中夜美人圖	同 宮中御遊船圖 同 宮庭雪打圖 同 見圖 同 獅子舞圖	同 釣鐘建立圖 同 鷹狩圖 同 樵父歸路圖 同 祭禮圖
◇容齋歷史畫譜	日本武尊東夷征討 仁德帝皇居 管公手向山參拜 西行與銀貓村童	赤染衛門住吉詣 孝子小佐治汲瀧水養老 小野小町觀櫻 御版喜三太奮戰	靜御前鎌倉舞踏 薩摩守忠度俊成御訣別 楠公父子訣別 村上義光錦旗守護
◇狩野常信畫譜	正月 眉柳群竹鶯 二月 山櫻雉子 三月 紫藤蜜雲雀 四月 杜鵑卯花	五月 橘花菖蒲水鷄 六月 羅麥舞火輪 七月 女郎花鳥鶉 八月 本荒萩初雁	九月 花薄鶉 十月 殘菊群鶉 十一月 枇杷花千鳥 十二月 雪中梅浮鳥
◇光琳畫譜	淺水野鷄之圖 梅椿白鷄之圖 井筒姫幽居之圖 定家卿十二月歌意之圖	戎尊釣鯛魚之圖 怒濤飛鷺之圖 敗荷翠禽之圖 秋暮薄鶉之圖	籬水白菊之圖 殘楓怪壁之圖 騎馬渡口之圖 秋色侍女之圖

◇森寬齋畫譜	◇應舉聚美畫譜後篇	◇抱一畫譜	◇光琳十二圖	◇光琳畫譜後篇
神樂獅子圖 桃林山水圖 牧童圖 海邊老松圖	蒼松雙鶴 江口の遊君 富士遠望 白隠鳥	四月野邊の茶摘 三月立雛 二月梅に鶯 正月祝ひ飯	津磨大師之圖 布洗之圖 紅葉に流水之圖 業平東下りの圖	七寶來舶 梅椿一瓶 宮中彩偶 紫藤鳥衣
月夜鴉粘圖 猛虎圖 雲中東方朔 柳陰漁舟圖	木賊に兎 唐様山水 野婦曳馬 明月に薄花	八月月見の供物 七月七夕之圖 六月住吉詣家土産 五月節句飾りもの	群鷺及岩上龜之圖 籬に菊花之圖 鹿之圖	三重不老 富士山 靈龜 福神遊覽
深山釣橋圖 風景東山圖	過雁の月 散楓に鯉魚 霧中飛猪 呂洞賓	九月茸狩家土産 十月時雨狐狩 十一月亥の子祭 十二月餅搗祝	籬に朝顔春草之圖 扇面三葉之圖 白梅之圖	紅旭碧瀾 阿香神 鳳伯遶勞 寒菊水仙

◇寬齋聚美畫譜	◇蘆雪畫譜	◇守住貫魚畫譜	◇能狂言畫譜	◇中古諸名家美人競	◇中古諸名家美人競後篇
三番叟 千秋萬歲 武陵桃源 老狸沽酒	神馬之圖 寒山揮毫之圖 拾得愛虎之圖 獅子憤勇之圖	旭日光輝之圖 松樹雲鷹之圖 離外梅月之圖 宇治川先登楓原景季之圖	おきな 朝比奈 道成寺 松風	光起筆 上龍筆 素絢筆 岩佐又兵衛筆古代白拍子	常信筆 破笠筆 一鳳筆 源琦筆
白鹿瑞芝 銀杏鳴蟬 一品當朝 月下掃衣	獅子激怒之圖 岩上驚之圖 唐子鼠遊之圖 御苑吹舞圖	宇治川先登佐々木高綱圖 平忠度詠歌之圖 那須典一扇の的之圖 兒島高德櫻樹題詩之圖	狷々 羽衣 野守 三輪	宮中美人 御殿女中 人形美人	唐美人圖 白拍子靜圖 官女圖 唐様婦人圖
秋山雙鹿 慈童餐菊 曉雪双鶴 田家露霽	牧童遊歩之圖 雪月山寺之圖 巖拐仙人之圖 蕨仙人之圖	楠正成天王寺出陣之圖 傀儡師之圖 源頼政詠歌之圖 常盤御前雪中之圖	靱猿 白藏主 鉢の水 知盛	鏡石美人 美人之圖 美人之圖	古風女圖 菜摘娘圖 美人圖 朝妻圖

◇候上願讀一御定規賢小書圖頭巻は節の文注御◇

◇今様美人

令嬢羽根遊
婦人觀梅
舞妓離祭
藝妓觀櫻
少女愛狗
婦人菖蒲見
令嬢彈琴
美人觀月

處女生花
離妓觀楓
令嬢盆石
婦人庭園遊歩

◇中古諸名家畫譜
(大形六枚入)

應舉筆
青雪筆
蓬萊山之圖
扁柏に鷹之圖
藤花群雀之圖

景文筆
燕村筆
椿山筆
花卉に蝶之圖
雨中山水之圖
桃花錦鳩之圖

◇中古名家聚美畫譜

桃太郎之圖
梅樹神鷄之圖
嵐山之圖
草芳童子之圖
雪中猿之圖
蓬萊山之圖
義家勿來關之圖
陶弘景之圖
正信筆
探幽筆
探幽筆
探幽筆

秋草小鳥之圖
猿猴珠玉を弄する圖
高堆山之圖
常盤御前雪中伏見之圖
菊童子之圖
虎之圖
龍之圖
雪中山水之圖

◇中古名家聚美畫譜後篇

義家勿來關之圖
陶弘景之圖
正信筆
探幽筆
探幽筆
探幽筆

六歌仙之圖
神樂之圖
西行法師之圖
菊に兎之圖
孝信筆
周信筆
榮川筆
探幽筆

光琳
光琳
一蝶
直賢
光琳
訥言
應受
南岳
養村筆
常信筆
探幽筆
守景筆

◇狩野名家聚美畫譜

紅旭双鶴
熊谷蓮生
櫻花文鳥
殘月杜鵑

春色嵐山
水草に鴨
月下嘯狸
盆會躍踊

紅葉秋山
林間煖楓
樵夫下山
牡丹孔雀

◇近世名家聚美畫譜

紅旭双鶴
熊谷蓮生
櫻花文鳥
殘月杜鵑

春色嵐山
水草に鴨
月下嘯狸
盆會躍踊

紅葉秋山
林間煖楓
樵夫下山
牡丹孔雀

◇候上願讀一御定規賢小書圖頭巻は節の文注御◇

諸大家
畫伯筆

名家畫譜

全部二十二冊 豎八寸 横一尺餘
各一冊 金壹圓 送料四錢

山水、人物、花鳥、動物、虫魚、等其他
あらゆる何れも現代大家の得意の筆になれり

◇松園美人畫譜

元祿美人讀書
祇園會觀餘少女
美人弄花
中古風俗

美人凭欄
家婦弄花
展畫挿花
衣通姫

住人觀雪
美人觀花
美人宿梅
佳人負兒

◇歷史畫譜

聖德太子
養老孝子
禁苑曲水
寫銀猫

白馬節會
源義家
愚峯詠歌
藤州宿櫻

四條暖香閣
牛若學劍法
巴御前勇戰
旅源太

◇風俗畫譜

離祭遊兒
加茂川納涼
耕作
海邊流屋

海濱漁網
八瀬居村
市街舊戲
少女觀禽

使丁遊戯
兒童之遊戯
晚擔燈火
樵農婦婦

◇古代風俗畫譜

源氏夕貞之卷
兒童風遊
名歌六仙
名媛歸佛

逢阪駒迎
井出玉川
武者出陣
三論繪卷

北野縁起之卷
同
歌聖年賀
新年賀

名家畫譜

名家畫譜

◇狩野家畫譜	◇中古名人畫譜	◇古代名工畫譜	◇古代名人畫譜	◇人物畫譜	◇古代風俗畫譜後編
渡舟……長坡驟雨……岩上双鶴……楊柳觀音……惠比須……山川風雨……春郊双狗……文殊菩薩……風神……大佛二王……眞山水……鐘馗捕鬼……陳阿彌……唐太宗蹴鞠遊玩圖……漁樵問答……同二……	海邊喬松……梅花……桃花双蝶……蒼海白鷗……蓬萊仙閣……春陽旭日……千支萬歲……猛虎……童牛二睡……柳陰洗馬……楓下雪孤……早鶯元日草……菜花胡蝶……朝顏草花……鵝粟之朝顏……岩上白鷗……彼岸櫻燕……蒼鷹飛雀……湖邊柳鷺……春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	雨中立池……浦島……石峰寺晚景……二翁吟詠……芙蓉峰……紅綠三祝……御所人形……新年の畫……樹下双鹿……桃林繁牛……富貴老……群猫遊戯……郊野戀秋……東籬秋芽……紫白藤花……秋野蟻蟻……藤下雙鷗……燕下雙鷗……廣郊有聲……月下來鴻……霜曉双鷗……竹間鷓鴣……狂花遊雀……夏夕涼風……	不動尊……大理石彫物……同……硯甲……大黑……秋景山水……牧童荷柳……美人敲水……二白戲研……牡丹……柳下群燕……羅漢一、二……	唐美人……同(桐葉風詩)……同(羅浮香夢)……漁樵問答……唐太宗蹴鞠遊玩圖……鐘馗捕鬼……眞山水……陳阿彌……張月……阿彌……	靜物語……(明應文龜年間風俗)……同二……正寶年間風俗繪卷……一ヨリ七マア……高山青嶂寫
松年景年畫譜	祝賀畫譜	動物蟲魚畫譜	草花畫譜	名家花鳥畫譜	名家花鳥畫譜後編
芙蓉峰……海邊喬松……梅花……桃花双蝶……蒼海白鷗……蓬萊仙閣……春陽旭日……千支萬歲……猛虎……童牛二睡……柳陰洗馬……楓下雪孤……早鶯元日草……菜花胡蝶……朝顏草花……鵝粟之朝顏……岩上白鷗……彼岸櫻燕……蒼鷹飛雀……湖邊柳鷺……春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	芙蓉峰……紅綠三祝……御所人形……新年の畫……樹下双鹿……桃林繁牛……富貴老……群猫遊戯……郊野戀秋……東籬秋芽……紫白藤花……秋野蟻蟻……藤下雙鷗……燕下雙鷗……廣郊有聲……月下來鴻……霜曉双鷗……竹間鷓鴣……狂花遊雀……夏夕涼風……	海邊の貝……海老双蝶……碧波金鱗……朝顏蜻蛉……夏田雙蛙……芙蓉蜻蛉……朝顏双蝶……秋野群雞……夕陽群鷄……風雨鷺……雪中双雀……	朝顏草花……鵝粟之朝顏……岩上白鷗……彼岸櫻燕……蒼鷹飛雀……湖邊柳鷺……春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……

名家畫譜

◇松年景年畫譜	◇祝賀畫譜	◇動物蟲魚畫譜	◇草花畫譜	◇名家花鳥畫譜	◇名家花鳥畫譜後編
芙蓉峰……海邊喬松……梅花……桃花双蝶……蒼海白鷗……蓬萊仙閣……春陽旭日……千支萬歲……猛虎……童牛二睡……柳陰洗馬……楓下雪孤……早鶯元日草……菜花胡蝶……朝顏草花……鵝粟之朝顏……岩上白鷗……彼岸櫻燕……蒼鷹飛雀……湖邊柳鷺……春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	芙蓉峰……紅綠三祝……御所人形……新年の畫……樹下双鹿……桃林繁牛……富貴老……群猫遊戯……郊野戀秋……東籬秋芽……紫白藤花……秋野蟻蟻……藤下雙鷗……燕下雙鷗……廣郊有聲……月下來鴻……霜曉双鷗……竹間鷓鴣……狂花遊雀……夏夕涼風……	海邊の貝……海老双蝶……碧波金鱗……朝顏蜻蛉……夏田雙蛙……芙蓉蜻蛉……朝顏双蝶……秋野群雞……夕陽群鷄……風雨鷺……雪中双雀……	朝顏草花……鵝粟之朝顏……岩上白鷗……彼岸櫻燕……蒼鷹飛雀……湖邊柳鷺……春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……	春郊遊鷗……春風白燕……花間鶯語……檜樹頰白……

◆ 近世名家山水畫譜

◆ 近世名家山水畫譜後編

◆ 日本名所畫譜

◆ 京都名所畫譜

◆ 京都名所畫譜後編

◆ 京都名所畫譜續編

芙蓉壇... 三宅吳曉 梅園高閣... 野村文舉 春朝汲流... 山田松溪 音羽雲樞... 山田雙竹	梅溪行旅... 山田松溪 春江垂釣... 補原文翠 山櫻春暈... 重春塘 春汀高閣... 藤井春水	御殿場富士... 山元春舉 月瀬梅溪... 竹内栖鳳 笠置山... 田中松齋 嵐山波月橋... 望月玉溪	御苑春景... 菊池芳文 長岡梅林... 谷口香嶠 平野神社... 三宅吳曉 修學院離宮... 長谷川玉純	安樂寺... 藤井玉洲 双林寺西行庵... 山田松溪 上加茂神社... 榑本忠美 智恩院山門... 幸野梅嶺	嵐山春曉... 竹内栖鳳 舟岡山春景... 森川曾文 松尾神社... 原在泉 吉田神社... 同	巖美瀑布... 川端玉章 海邊納船... 山田松溪 墨畫山水... 山元春舉 紅葉山水... 神坂露佳	樹間瀑布... 山元春舉 秋江遊舟... 重春塘 月夜鹿... 山田松溪 秋霧小驛... 川端玉章	高雄地藏院谷... 森川曾文 宇治川上流... 山田松溪 長良川鶴飼... 川合玉堂 甲斐猿橋... 野村文舉	保津川銀山... 三宅吳曉 雨中金閣寺... 田中月耕 加茂神社... 一見連城 月夜八坂塔... 山田松溪	如意嶽首夏... 山田松溪 深草元政庵... 三宅吳曉 北野神社... 山元春舉 宇治平等院... 山田雙竹	山端子規... 田中月耕 嵐山千鳥淵... 山田雙竹 善薩池青楓... 森川曾文 梅尾... 田村宗立	秋山... 三宅吳曉 月下宿鳥... 三宅吳曉 網代守屋... 山田雙竹 郊野來鳴... 都路華香 洛西花の寺... 田中松齋 銚子口... 望月玉溪 雲中山水... 山田松溪	那智山瀑布... 山元春舉 若狹高麗夕照... 田村宗立 北海道神居古潭... 谷口香嶠 志州鳥羽浦... 都路華香	南禪寺山門... 三宅吳曉 音無瀨瀧... 山田松溪 雪中銀閣寺... 土田喜園 雪中圓山... 神阪露佳	桂離宮御庭... 森川曾文 法然寺... 一見連城 梅尾霜楓... 山田雙竹 嵯峨野之宮雪景... 山田松溪	觀月橋秋月... 森川曾文 太秦秋月... 藤井玉洲 通天橋紅楓... 小林吳曉 圓山菊畑... 一見連城
-------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

古裂研の寶典

叔山家舊藏

天華滿墜

京都五大圖案家編

花小袖

岸本景春氏編

綵霞帖

野村正治郎編並珍藏

小袖と振袖

野村正治郎編並珍藏

續誰が袖百種

精巧原色版三十三葉帙宮入全一冊
定價金參拾圓 送料金壹圓

原色版五十葉二色版五十葉帙入全一冊
定價金五拾圓 送料金壹圓

原色版玻璃版六十葉帙入全一冊
定價金六拾圓 送料金壹圓

精巧原色版百枚帙宮入全一冊
定價金八拾圓 送料金壹圓

精巧原色版百枚帙宮入全一冊
定價金八拾圓 送料金壹圓

◇ 京都名所畫譜 後編

◇ 京都名所畫譜 續編

- 上加茂神社……… 粟本忠美
- 智恩院山門……… 幸野梅嶺
- 嵐山春曉……… 竹内栖鳳
- 舟岡山春景……… 森川曾文
- 松尾神社……… 原 在泉
- 吉田神社……… 同
- 北野神社……… 山元春舉
- 宇治平等院……… 山田雙竹
- 山端子規……… 田中月耕
- 嵐山千鳥淵……… 山田雙竹
- 菩薩池青楓……… 森川曾文
- 梅尾……… 田村宗立
- 觀月橋秋月……… 森川曾文
- 太秦秋月……… 藤井玉洲
- 通天橋紅楓……… 小林吳曉
- 圓山菊畑……… 一見連城

欄外注意事項に反するときは郵便局にて受付を断るとあるべし

監査	局印	番付	加入者	氏名	※一金	拂込	人名
(東京) 四〇九四〇番		合名會社		芸艸堂支店		※	
局付受		局付受		口座所管日附印		口座所管日附印	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし
六ヶ月保存

數字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

拂込	局印	加入者	氏名	※一金	拂込	人名	
(東京) 四〇九四〇番		合名會社		芸艸堂支店		※	
局付受		局付受		口座所管日附印		口座所管日附印	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし
一ヶ月保存

各票金高に相違なきことを必ず確むること

拂込通知	局印	加入者	氏名	※一金	拂込	人名	
(東京) 四〇九四〇番		合名會社		芸艸堂支店		※	
局付受		局付受		口座所管日附印		口座所管日附印	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし

金額を訂正せざることを

口座 (東京) 四〇九四〇番

付受

票 拂 込	
名 人 氏	※
印附日 局付受	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし

六ヶ月保存

数字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

票 拂 込	
口 座 番 号	(東京) 四〇九四〇番
加入者 氏 名	合名會社 芸艸堂支店
印附日 局付受	
口 座 番 号	※ 一金
拂込 人 住 氏 名	小 新
印附日 局付受	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし

一ヶ月保存

各票金高に相違なきことを必ず確むること

票 知 通 込 拂	
口 座 番 号	(東京) 四〇九四〇番
加入者 氏 名	合名會社 芸艸堂支店
印附日 局付受	
口 座 番 号	※ 一金
拂込 人 住 氏 名	※
印附日 局付受	

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるべし

金額を訂正せざることを

票 領 受	
口 座 番 号	(東京) 四〇九四〇番
加入者 氏 名	合名會社 芸艸堂支店
印附日 局付受	
口 座 番 号	※ 一金
印附日 局付受	

芸艸堂支店

古裂研究の寶典

- 天華滿墜 精巧原色版三十三葉 帙筒入全一冊 定價金參拾圓 送料金壹圓
- 京都五人圖案家編
- 花小袖 原色版五十葉二色版五十葉 帙筒入全一冊 定價金五拾圓 送料金壹圓
- 岸本景春氏編
- 綵霞帖 原色版玻璃版六十葉 帙筒入全一冊 定價金六拾圓 送料金壹圓
- 野村正治郎編並珍藏
- 小袖と振袖 精巧原色版百枚 帙筒入全一冊 定價金八拾圓 送料金壹圓
- 野村正治郎編並珍藏
- 續誰が袖百種 精巧原色版百枚 帙筒入全一冊 定價金八拾圓 送料金壹圓

美術出版の權威

- 能壽賀多 每輯原色版三葉 オフセット刷六葉 全二十輯約百八十葉 一期完結 定價金四圓 續者特價金參圓五拾錢
- 觀世會々長 伯爵 內田康哉閣下題字 舞臺面型所小道具描寫
- 文學博士 笹川臨風先生序文 松野奏風畫伯筆
- 宗家觀世左近先生舞影並編纂
- 觀世宗家の御快諾にて其の入神の舞影を特寫精巧無比なる原色版印刷・附したるもの
- 奏風畫伯の舞臺面型所小道具作物等の描寫と相俟つて斯界唯一の一大寶典にして愛好者は勿論美術家工藝家の座右必備の良書也
- 巖谷小波先生 瀧木清方先生 溝口頑次郎先生
- 和田英作先生 荒木十畝先生 各推薦贊助
- 西澤笛畝畫伯編纂
- 人形集成 每輯原色版三葉 コロタイプ刷五葉 本版刷二葉 全十輯完結 附解説付 定價金五圓 續者特價金四圓五拾錢
- 人形玩具研究の權威たる著者が多年の苦心を傾倒して帝室博物館及各地名家秘蔵の逸品たる各種人形を特に請ひて寫し一々詳細なる解説を附せるもの印刷の精巧と共に斯界無二の研究資料なり

六大美術叢書發兌

- 美術趣味叢書
- 日本美術叢書
- 現代大家叢書
- 東洋藝術叢書
- 西洋藝術叢書
- 浮世繪叢書
- 美 浮世繪志

◇本書目御入用の方は郵費或封入御申越次第送呈仕候
◇原色版挿入目録御入用の方は買費半額或送料送金願上候

昭和六年三月廿五日印刷
昭和六年四月一日發行

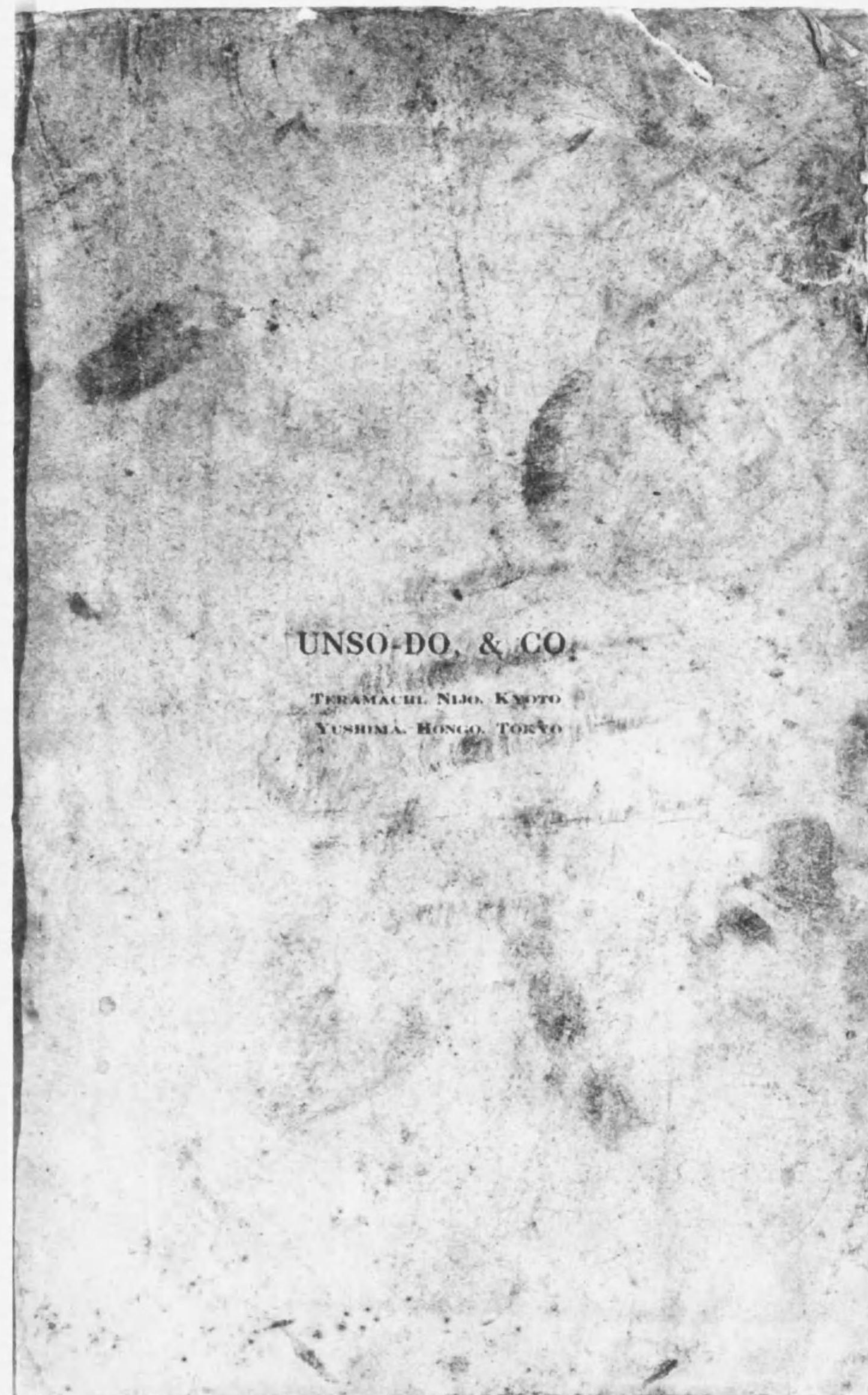
發行兼印刷者 合名會社 芸艸堂出版部
京都市中京區寺町二條南入

發行所 合名會社 芸艸堂

本店 京都市寺町二條南 電話上二二九〇番 下二五八〇番
支店 東京本郷湯島一ノ一 電話下谷三六〇〇番 本郷東京四〇九四〇番

【非賣品】

終



UNSO-DO, & CO.

TERAMACHI, NIJO, KYOTO

YUSHIMA, HONGO, TOKYO